

男女共同参画社会づくりのための意識調査

報 告 書

2021(令和3)年3月

宇 佐 市

宇佐市総務部人権啓発・部落差別解消推進課

目次

I 調査の概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査概要	3
II 調査結果	4
1. あなたご自身のことについて	4
性別	4
年齢	4
結婚	5
夫婦の働き方	5
お子さまの年齢	6
家族構成	6
職業	7
住まい	8
2. 男女の意識について	9
役割分担に対する意識	9
男女平等に対する意識	10
家庭内における役割分担	17
家事・育児・介護等への男性参加を進めるために必要なこと	19
3. 仕事について	21
仕事との関係	21
仕事のやりがい	23
今後の仕事について	24
女性が職業をもつこと	25
職場における待遇	26
男性の育児・介護休業の取得	29
女性が仕事を続けるために必要な支援	32
4. 地域活動について	33
女性が活動しにくい状況	33
5. 教育について	36
しつけや教育についての考え方	36
しつけや教育での気づかい	41
学歴	41
6. 女性の人権について	42

心身の健康に必要なこと	42
男女の固定的な考え方	43
7. ドメスティック・バイオレンス（夫婦・恋人間の暴力）について	46
ドメスティック・バイオレンスの実態	46
8. セクシュアル・ハラスメントの実態	49
9. 女性の参画や施策への要望について	51
女性の参画が少ない理由	51
行政に望むこと	52
10. 防災について	53
防災の参画について	53
11. ワークライフバランスについて	54
生活の中の優先度	54
12. 自由意見	55
家事・育児・介護等への男性参加を進めるために必要なこと	55
仕事との関係	55
女性が職業をもつこと	56
職場における待遇	57
男性の育児・介護休業取得	57
男性の育児・介護休業の取得しづらい理由	58
女性が仕事を続けるために必要な支援	58
地域で女性が活躍しにくい状況	59
子どもの学歴	59
心身の健康に必要なこと	60
女性の参画が少ない理由	61
行政に望むこと	61
男女共同参画社会を実現するための市に対しての意見や要望	62
III まとめと検討課題	70
男女共同参画のための意識改革	70
あらゆる分野への男女共同参画	71
働く場における男女共同参画の環境づくり	71
健康の増進と福祉の充実	71
配偶者等に対する暴力の根絶	72

I 調査の概要

1. 調査の目的

本市の男女共同参画施策の指針を示す「第2次宇佐市男女共同参画プラン」は、2021（令和3）年度にその目標年度に達するため、社会情勢の変化に対応し、また地域に根ざしたものになるよう、新たなプラン策定のための基礎資料を得ることを目的として本調査を実施しました。

2. 調査概要

調査対象：20歳以上の市内在住者1,800人を住民基本台帳より無作為抽出

調査期間：令和2年8月17日～令和2年10月7日

調査方法：郵送による配布・回収

調査機関：宇佐市総務部人権啓発・部落差別解消推進課

調査内容：あなたご自身のことについて（8問）

男女の意識について（4問）

仕事について（5問）

地域活動について（1問）

教育について（3問）

女性の人権について（2問）

ドメスティック・バイオレンス（夫婦・恋人間の暴力）について（1問）

セクシャル・ハラスメント等について（1問）

女性の参画や施策への要望などについて（2問）

防災について（1問）

ワークライフバランスについて（2問）

回収結果：

配布数	付着数	有効配布数	回収数	有効回収率
1,800	6	1,794	586	32.7%

II 調査結果

1. あなたご自身のことについて

問1. あなたの性別は。

・回答者の性別について、「女性」の割合は54.6%、「男性」は44.9%です。今回、性の多様性を尊重するため「その他」の回答を選択肢に追加し、0.2%（1名）となっています。

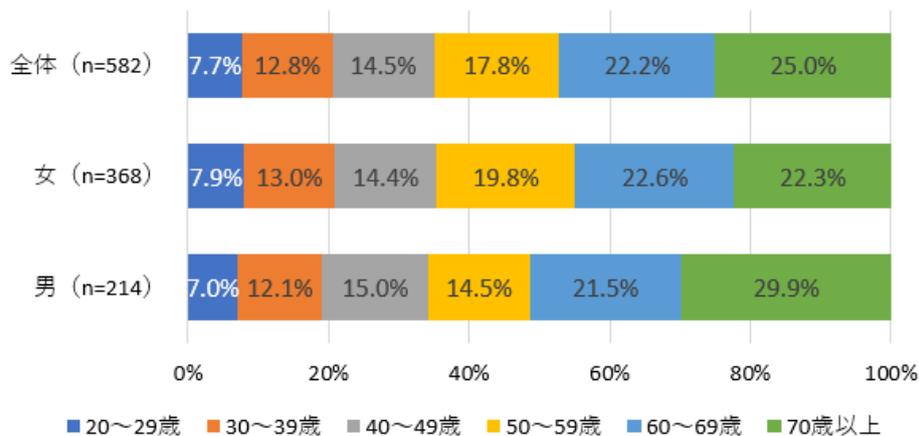
1. 女性	320	54.6%
2. 男性	263	44.9%
3. その他	1	0.2%
4. 無回答	2	0.3%



問2. あなたの年齢は。

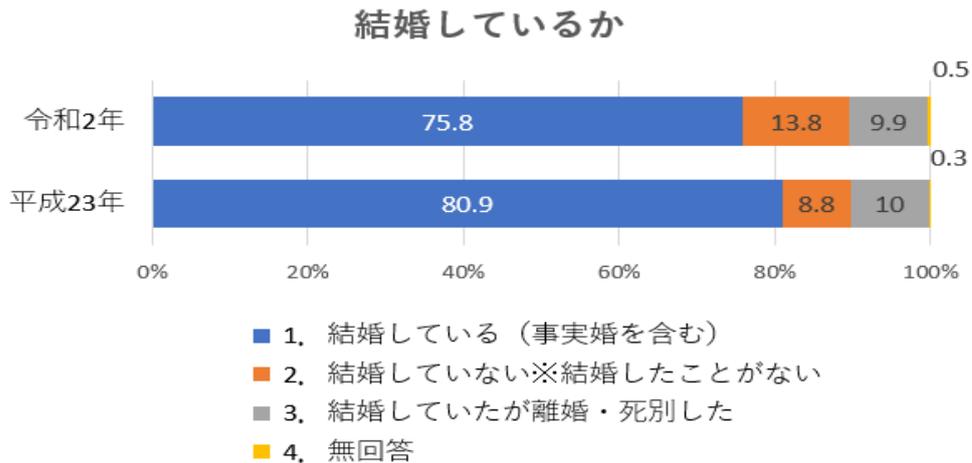
・年齢層が上がるほど回答割合が増加し、60歳以上の回答者が約半数を占めます。

年齢構成



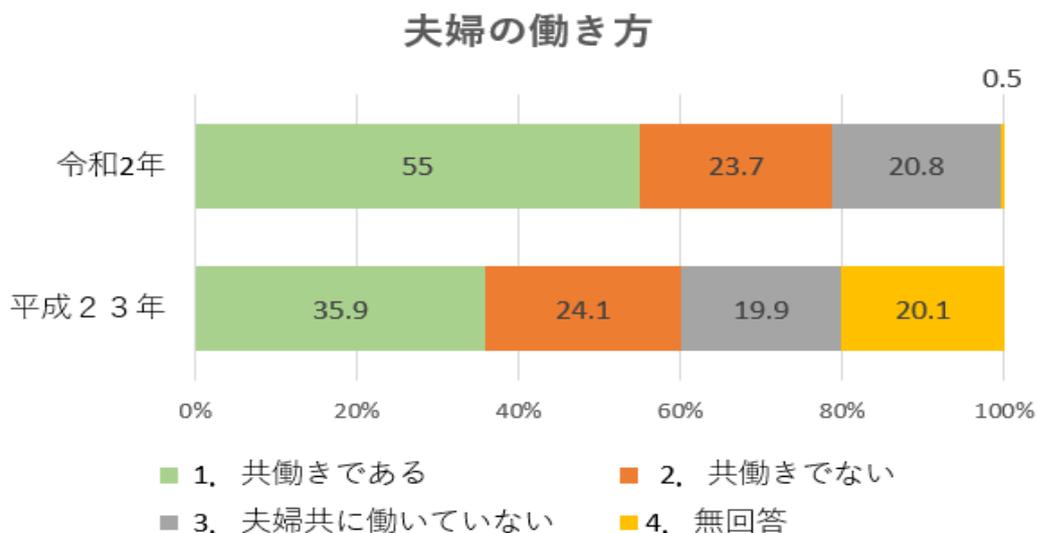
問3. あなたは結婚（事実婚を含む）をしていますか。

- ・結婚している割合は全体で7割以上を占めています。
- ・平成23年より「結婚している」割合が約5%減り、「結婚していない」割合が約5%増えています。



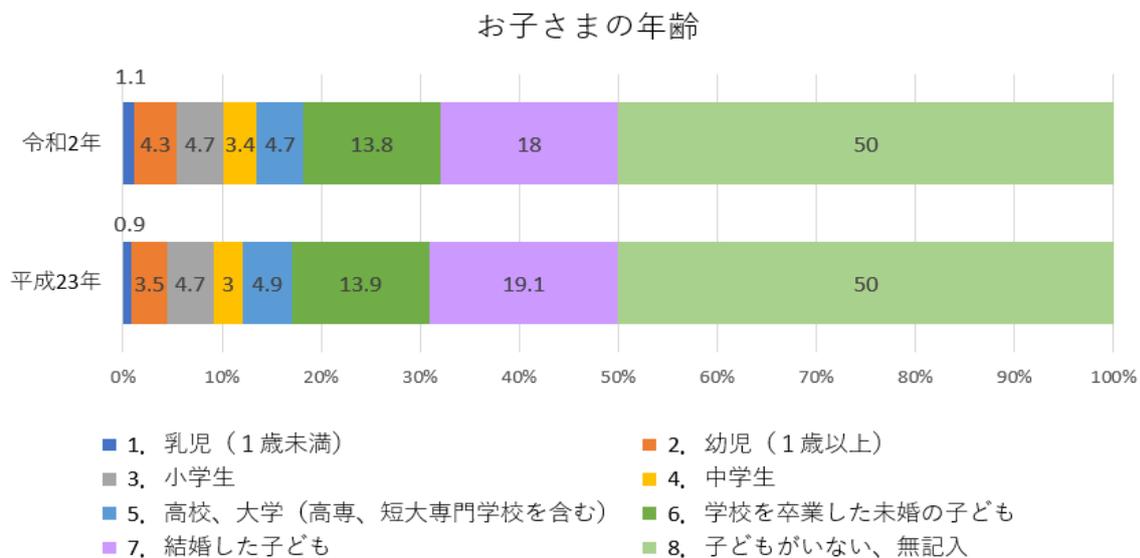
問4. 問3で「1. 結婚している（事実婚を含む）」を選んだ方におうかがいします。
あなたは共働き（※夫婦とも収入の伴う仕事をしていること。パート・アルバイトなどを含む）ですか。

- ・共働き世帯は結婚している夫婦の半数以上を占めています。

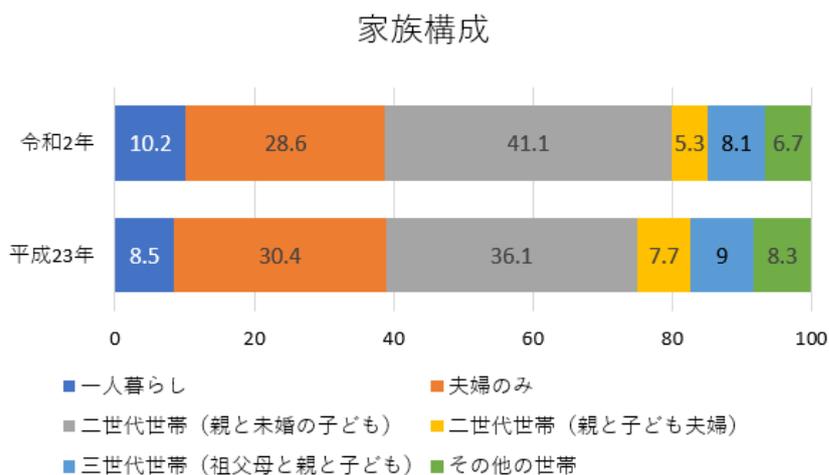


問 5. あなたにお子さんがおられる場合、別居しているお子さんを含め、当てはまる番号をすべて選んでください。

・子どもの年齢別の割合については、平成23年の調査時とほとんど変わっていない。

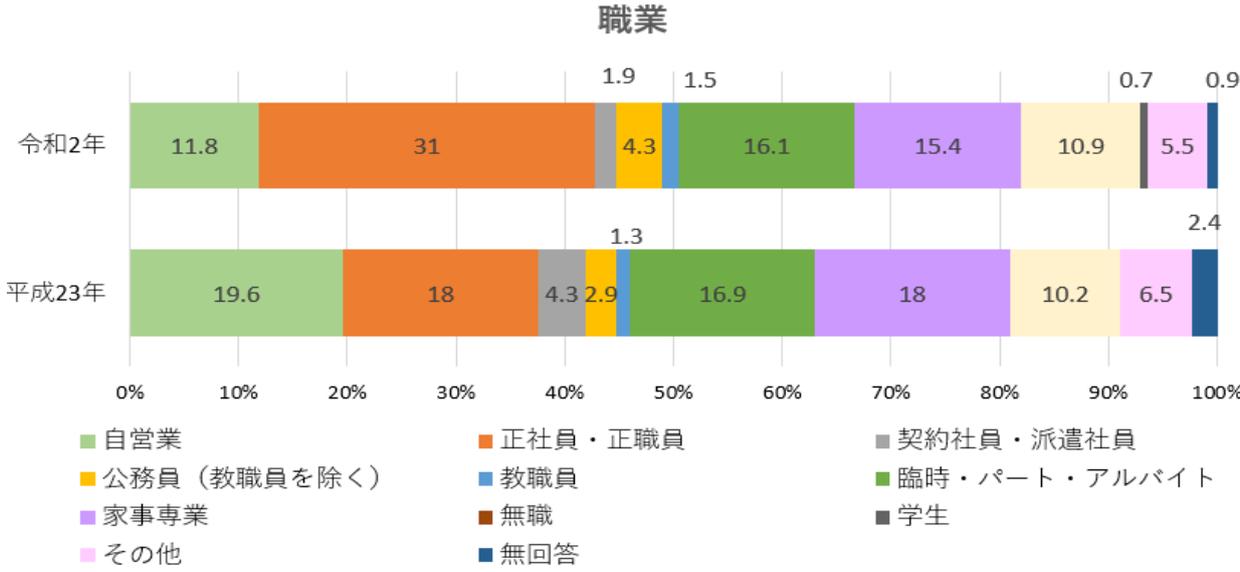


問 6.あなたのお宅のご家族の構成は、次の中のどれにあたりますか。



問 7. あなたの職業は。

・平成 23 年の調査よりも自営業の割合は約 8%減少し、正社員・正職員の割合が約 13%増加しています。



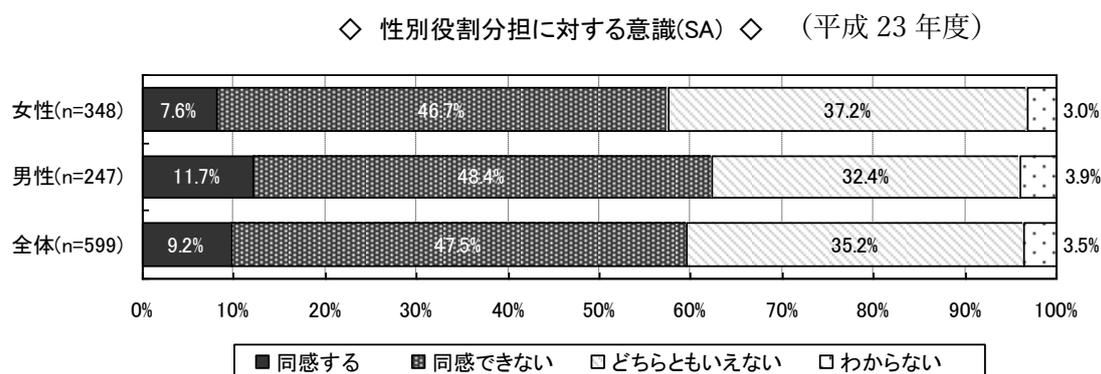
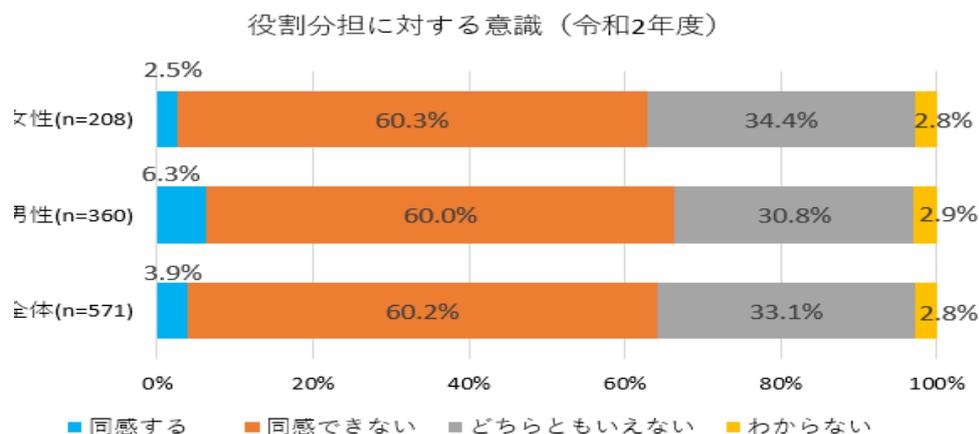
問 8. あなたは現在どこにお住まいですか。

1. 麻生	5	0.9%	15. 西馬城	5	0.9%
2. 横山	11	1.9%	16. 豊川	39	6.7%
3. 長峰	21	3.6%	17. 駅館	47	8.0%
4. 天津	24	4.1%	18. 安心院	16	2.7%
5. 高家	26	4.4%	19. 深見	3	0.5%
6. 八幡	37	6.3%	20. 津房	1	0.2%
7. 糸口	11	1.9%	21. 佐田	0	0.0%
8. 四日市	75	12.8%	22. 南院内	13	2.2%
9. 柳ヶ浦	40	6.8%	23. 院内	18	3.1%
10. 長洲	34	5.8%	24. 東院内	12	2.0%
11. 和間	28	4.8%	25. 高並	7	1.2%
12. 封戸	5	0.9%	26. 両川	7	1.2%
13. 北馬城	30	5.1%	27. 無回答	14	2.4%
14. 宇佐	57	9.7%			

2. 男女の意識について

問9. 「男は仕事、女は家庭」などと性別によって役割を固定する考え方がありますが、あなたはその考え方をどう思いますか。

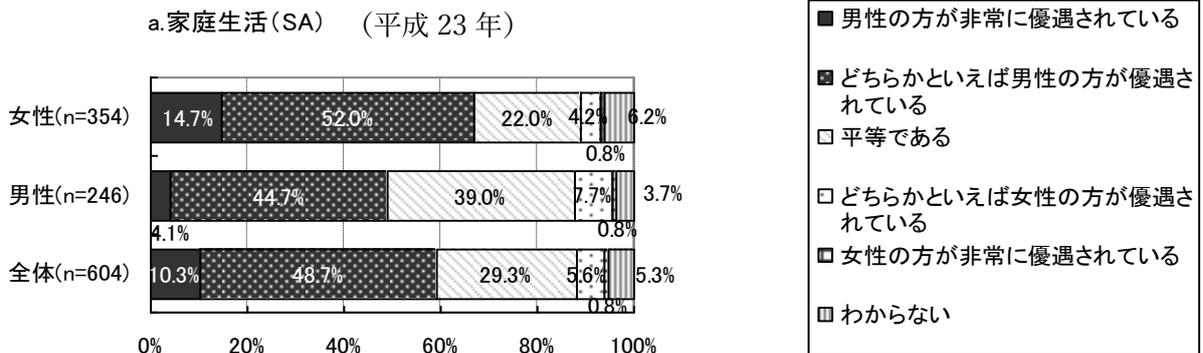
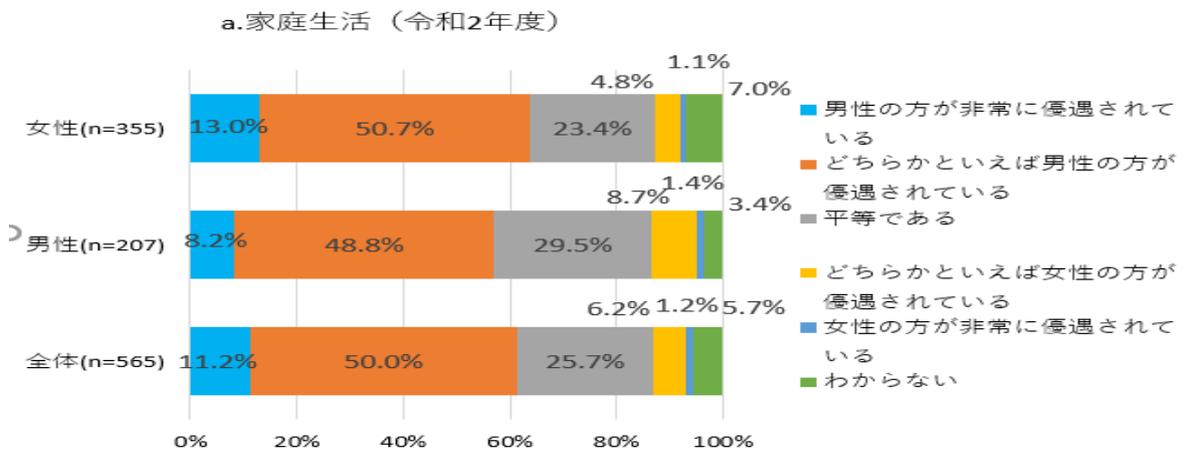
- ・全体では「同感できない」が約6割で最も高い。
- ・性別で見ると、「同感できない」では、女性（60.3%）が男性（60.0%）より0.3ポイント高い。
- ・前回調査と比較すると、「同感できない」割合は、今回（60.2%）が前回（47.5%）より12.7ポイント高い。



問 10. あなたは、次の分野において男女の地位は平等になっていると思いますか。次の (a) ~ (g) のそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものをそれぞれ 1 つだけ選び、番号に○をつけてください。

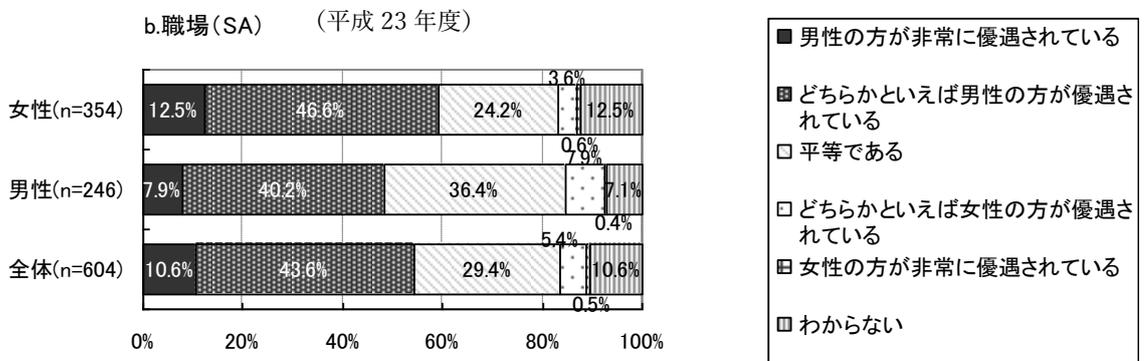
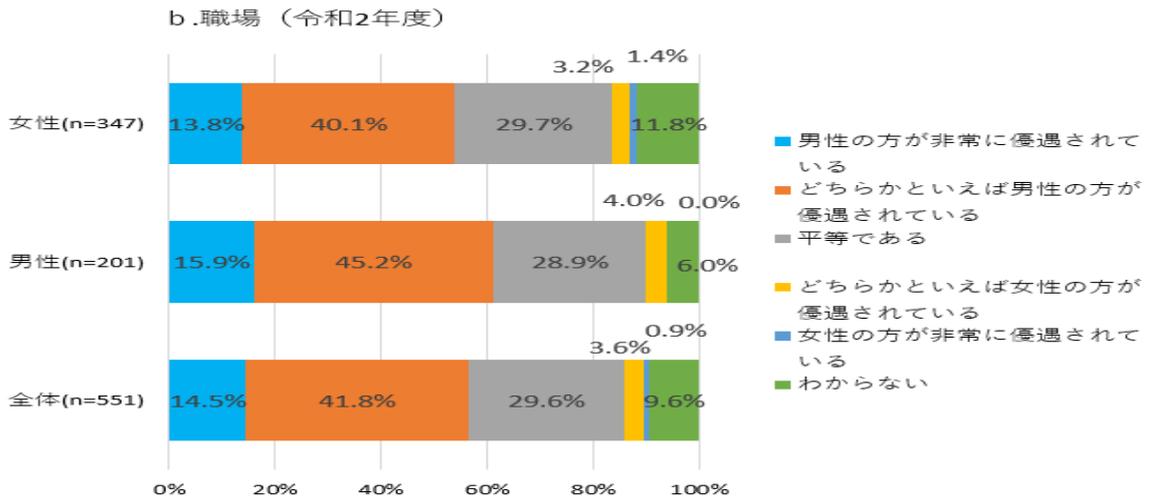
《家庭生活》

- ・全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が約 5 割で最も高い。
- ・性別で見ると「平等である」では、女性 (23.4%) が男性 (29.5%) より 6.1 ポイント低い。
- ・前回調査と比較すると大きな変化はみられない。最も差がみられた「平等である」では、今回 (25.7%) が前回 (29.3%) より 3.6 ポイント低い。



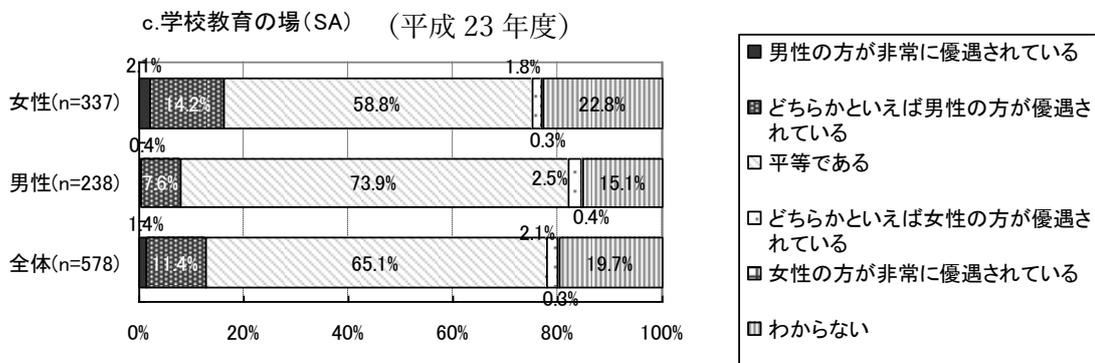
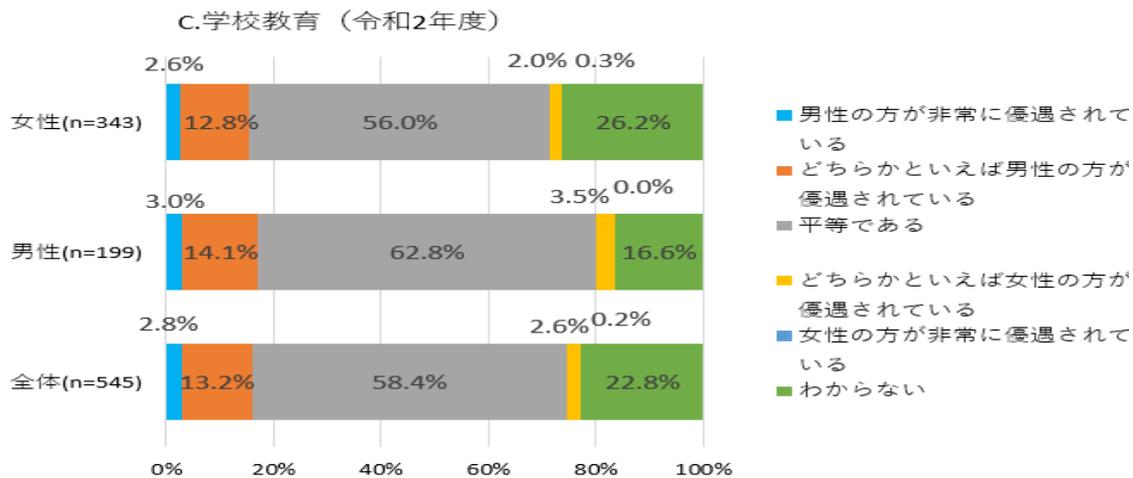
《職場》

- ・全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が約4割で最も高い。
- ・性別で見ると「平等である」では、女性（29.7%）が男性（28.9%）より0.8ポイント高い。
- ・前回調査と比較すると、最も差がみられた「男性の方が非常に優遇されている」では、今回（14.5%）が前回（10.6%）より3.9ポイント高い。



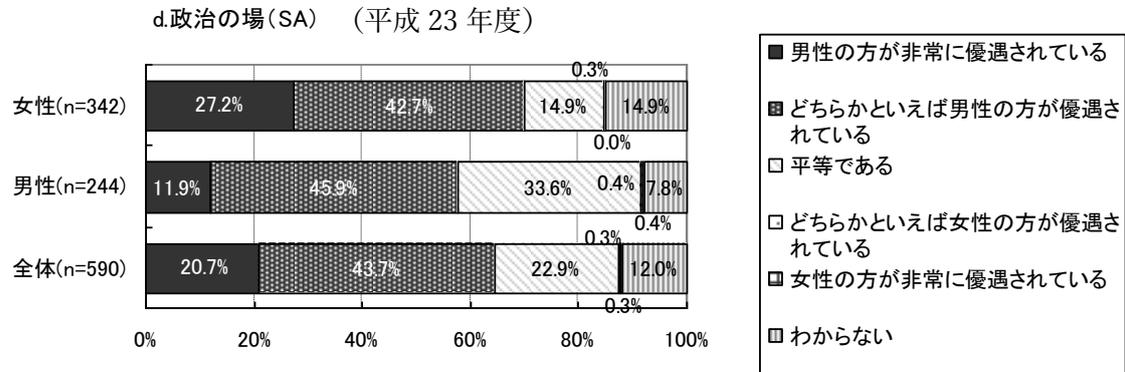
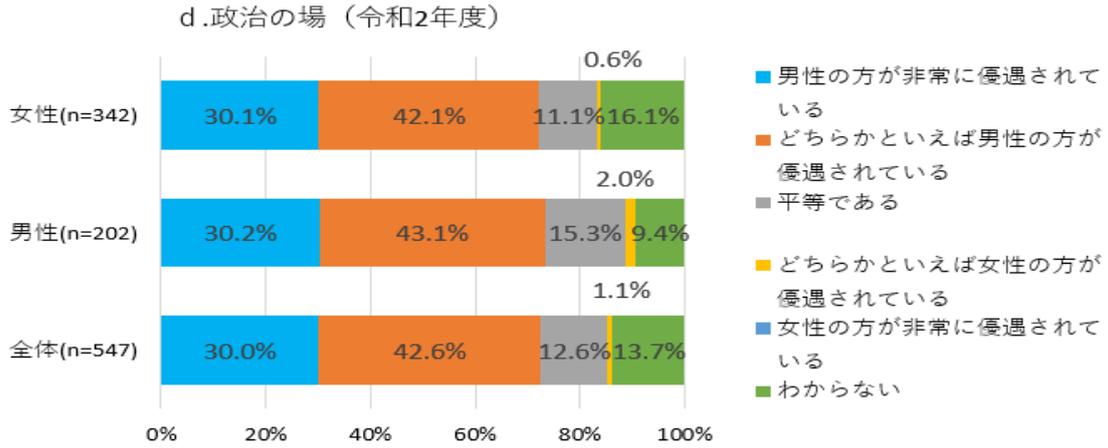
《学校教育》

- ・全体では「平等である」が約6割で最も高い。
- ・性別でみると「平等である」では、女性（56.0%）が男性（62.8%）より6.8ポイント低い。
- ・前回調査と比較すると、最も差がみられた「平等である」では、今回（58.4%）が前回（65.1%）より6.7ポイント低い。



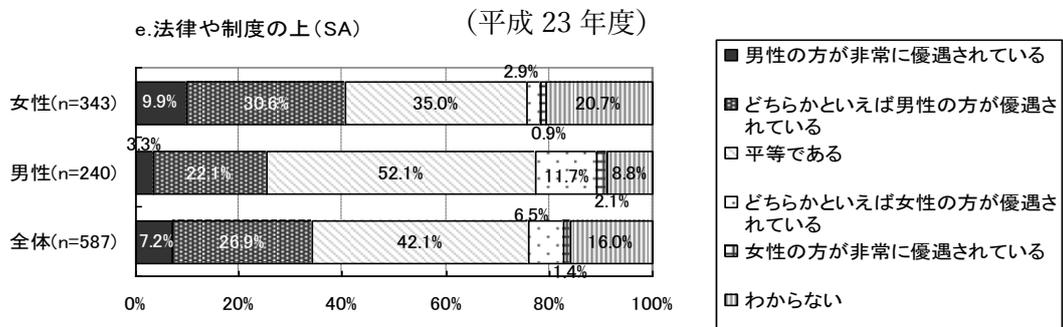
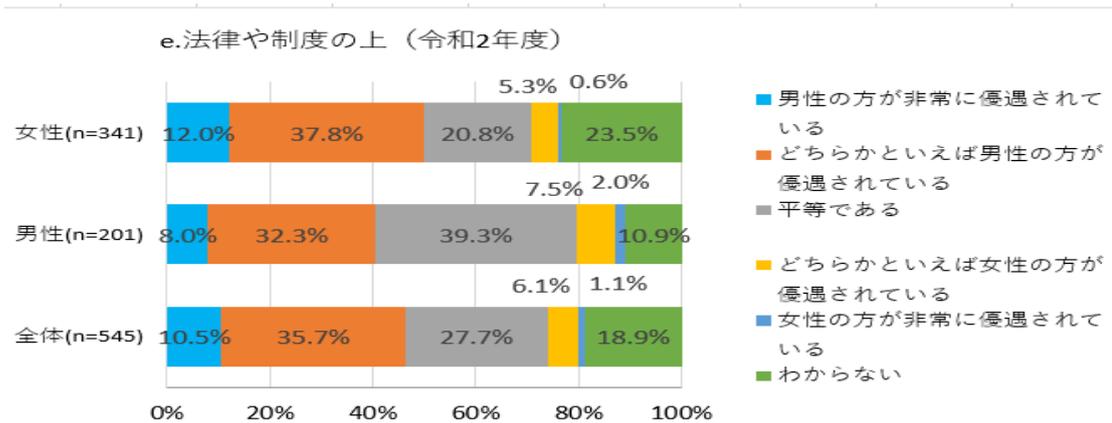
《政治の場》

- ・全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が約4割で最も高い。
- ・性別で見ると「平等である」では、女性（11.1%）が男性（15.3%）より4.2ポイント低い。
- ・前回調査と比較すると、最も差がみられた「どちらかといえば女性の方が優遇されている」では今回（12.6%）が前回（22.9%）より10.3ポイント低い。



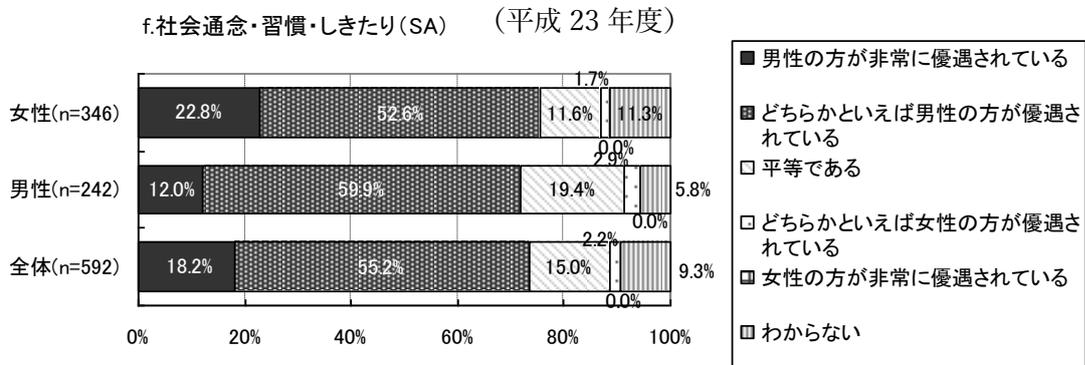
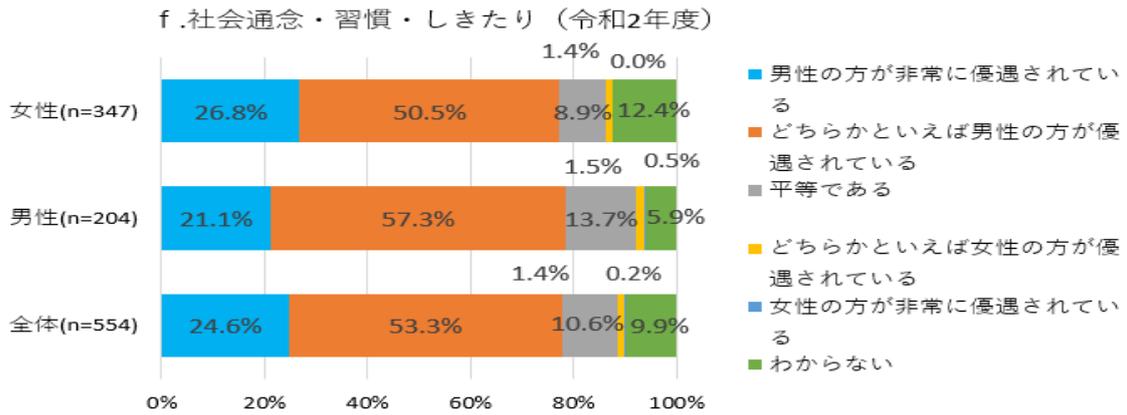
《法律や制度の上で》

- ・全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が約3割半ばを超え、最も高い。
- ・性別で見ると「平等である」では、女性（20.8%）が男性（39.3%）より18.5ポイント低い。
- ・前回調査と比較すると、最も差がみられた「平等である」では今回（27.7%）が前回（42.1%）より14.4ポイント低い。



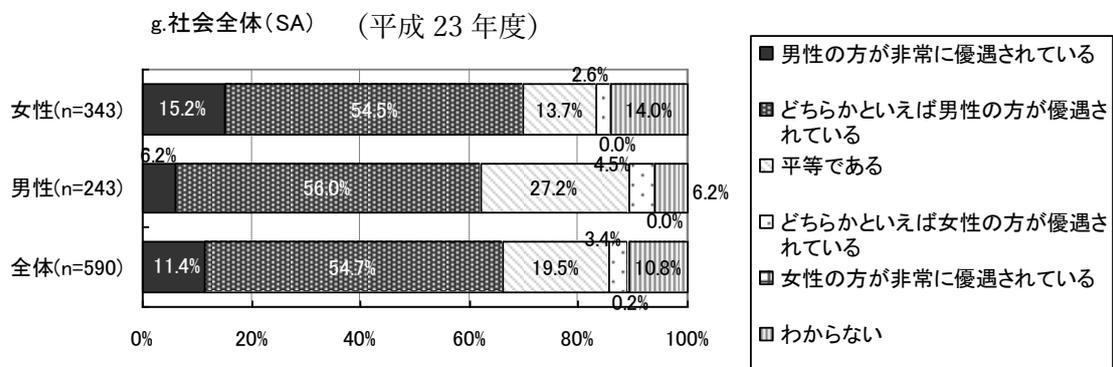
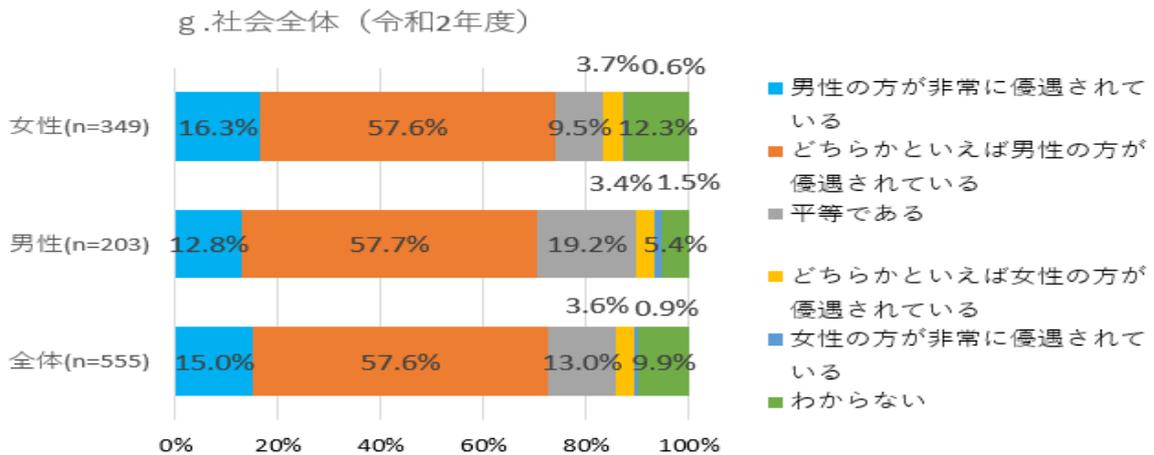
《社会通念・習慣・しきたり》

- ・全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が約5割で最も高い。
- ・性別で見ると「平等である」では、女性（8.9%）が男性（13.7%）より4.8ポイント低い。
- ・前回調査と比較すると、最も差がみられた「男性の方が非常に優遇されている」では今回（24.6%）が前回（18.2%）より6.4ポイント高い。



《社会全体》

- ・全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が約5割半ばを超え、最も高い。
- ・性別でみると「平等である」では、女性（9.5%）が男性（19.2%）より9.7ポイント低い。
- ・前回調査と比較すると、最も差がみられた「平等である」では今回（13.0%）が前回（19.5%）より6.5ポイント低い。



問 11.結婚している方（事実婚を含む）におうかがいします。あなたの家庭では、次の役割分担を誰がしていますか。あなたの家庭にあてはまるものの番号を【回答欄（1）：現状】から、あなたが理想とお考えの番号を【回答欄（2）：理想】からそれぞれ1つずつ選び番号に○をつけてください。

（注）（a）～（j）のうち、あてはまらない項目については記入する必要はありません。

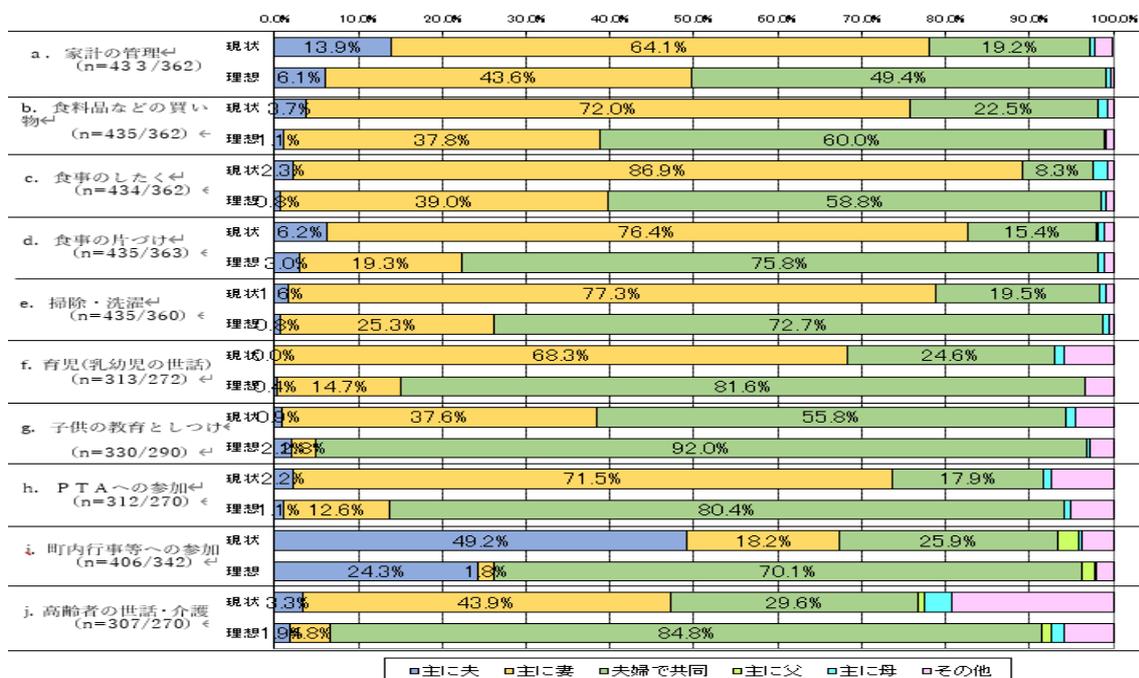
全体では、各分野の理想は「夫婦で共同」が最も高く、現状では「i. 町内行事等への参加」を除いて「主に妻」が最も高い。現状と理想で最も差がみられた「h. PTAへの参加」の「夫婦で共同」では、現状（17.9%）が理想（80.4%）より62.5ポイント低い。

・現状では「c. 食事のしたく」の「主に妻」（86.9%）が最も高く8割を超えている。現状での「主に妻」では「e. 掃除・洗濯」（77.3%）、「d. 食事の片付け」（76.4%）、「b. 食料品などの買い物」（72.0%）、「h. PTAへの参加」（71.5%）の項目で7割を超えている。

・理想では「g. 子供の教育としつけ」の「夫婦で共同」が最も高く、唯一9割を超え「夫婦で共同」では「j. 高齢者の世話・介護」（84.8%）、「f. 育児（乳幼児の世話）」（81.6%）、「h. PTAへの参加」（80.4%）で8割を超えている。

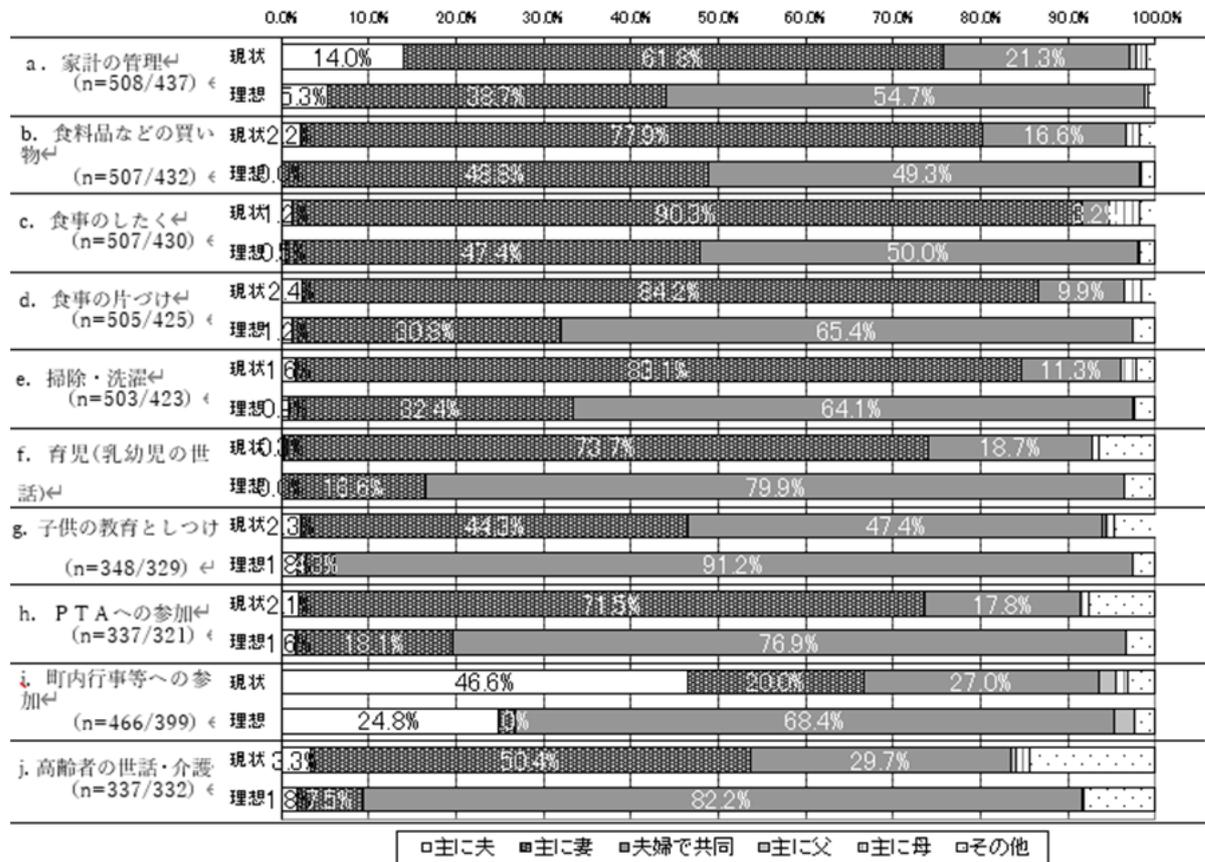
・現状で「主に夫」が最も高いのは「i. 町内行事等への参加」（49.2%）であり、その他項目において、現状で「主に夫」が10%を超えているのは「a. 家計の管理」（13.9%）のみとなっている。

◇ 家庭内における役割分担～現状と理想(SA) ◇ (令和2年度)



(平成 23 年度)

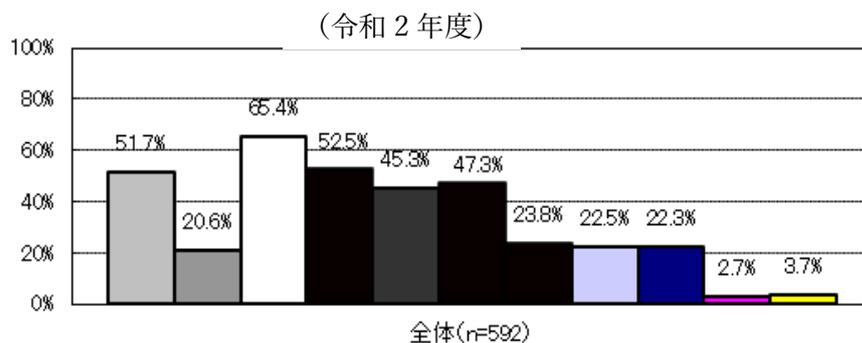
◇ 家庭内における役割分担～現状と理想(SA) ◀



問 12. あなたは今後、男性が女性とともに家事、育児、介護、地域活動等への男性の参加を進めるために必要なことは何だと思えますか。あてはまる番号をすべて○印をつけてください。

- ・全体では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」約6割半で最も高い。
- ・性別でみると、いずれの意見も割合に大きな差は無く、最も割合に開きがあった「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」で男性が女性より1.5ポイント低い。
- ・前回調査と比較すると、最も差がみられた「国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること」では今回（23.8%）が前回（31.6%）より7.8ポイント低い。

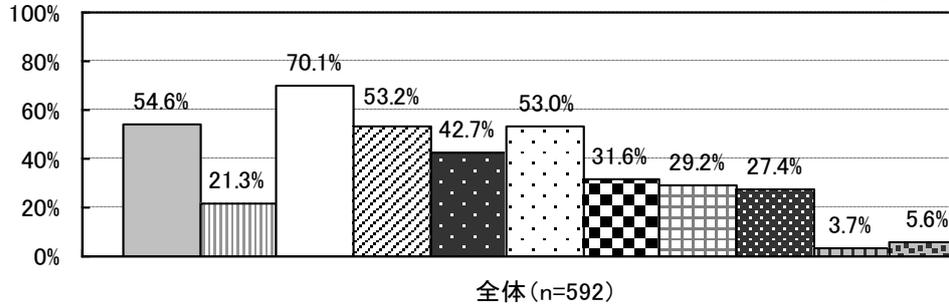
◇ 男性の家事参加を進めるために必要なこと(MA) ◇



- 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動についても理解し、支援すること
- 労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多くもてるようにすること
- 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること
- 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
- 男性が育児や介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りを進めること
- 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が種類しやすい窓口を設けること
- その他
- 特に必要なことはい

◇ 男性の家事参加を進めるために必要なこと(MA) ◇

(平成23年度)

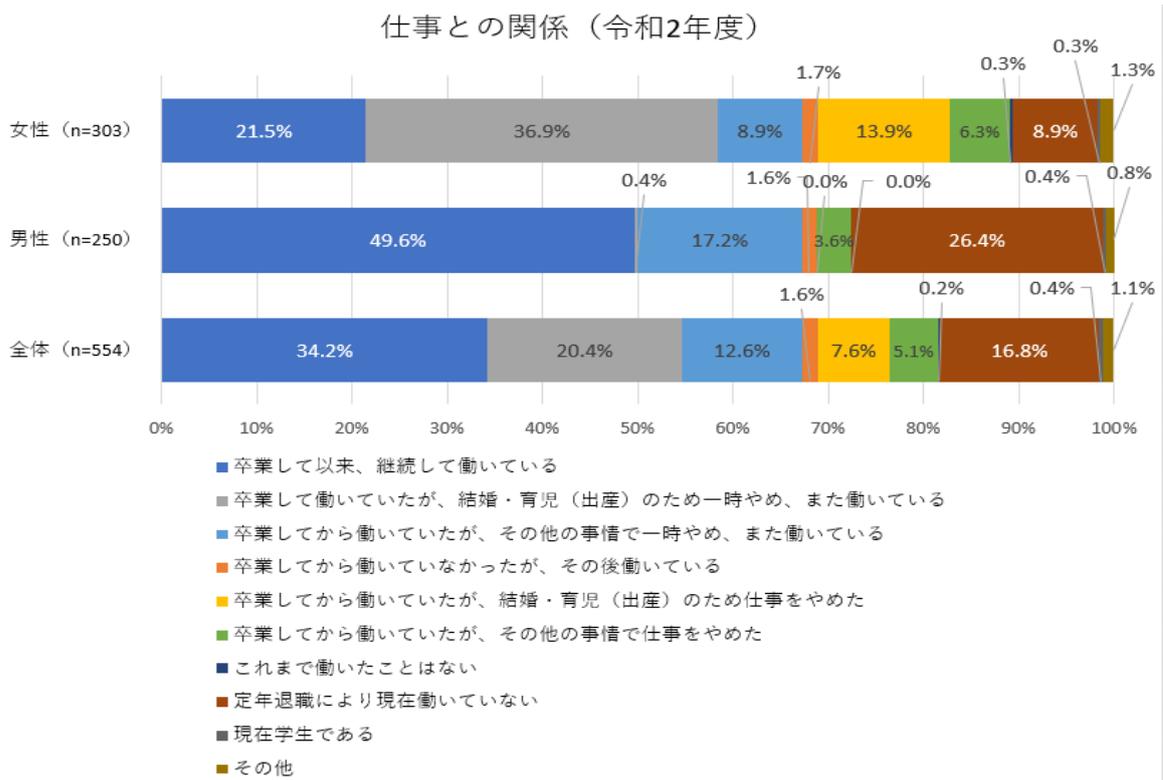


- 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- ☑ 職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動についても理解し、支援すること
- 労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多くもてるようにすること
- 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること
- 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
- 男性が育児や介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りを進めること
- 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- その他
- 特に必要なことはない

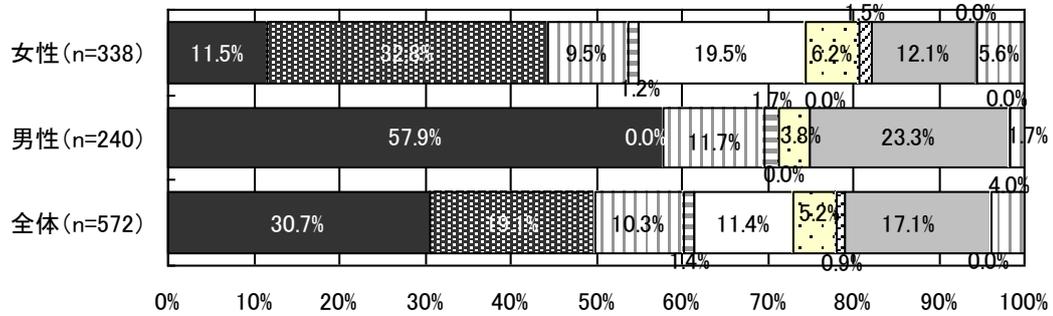
3. 仕事について

問 13.あなたと仕事の関係は次のどれですか。あてはまる番号を1つだけ選び、番号に○印をつけてください。

- ・全体では「卒業して以来、継続して働いている」が約3割半で最も高い。
- ・性別でみると「卒業して働いていたが、結婚・育児（出産）のため一時やめ、また働いている」では女性（36.9%）が男性（0.4%）より36.5ポイント高い。
- ・前回調査と比較すると、最も差がみられた「卒業して働いていたが、結婚・育児（出産）のため仕事をやめた」では今回（7.6%）が前回（11.4%）より3.8ポイント低い。



◇ 仕事との関係(SA) ◇ (平成 23 年度)

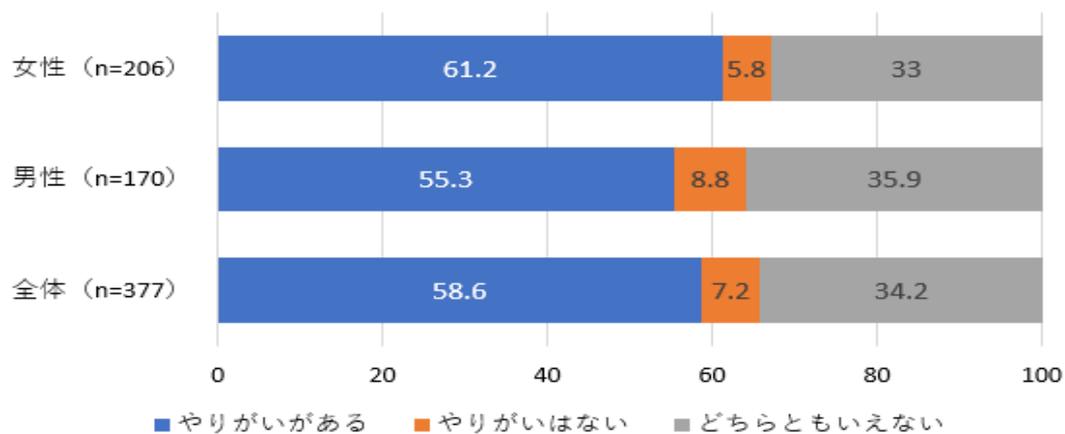


- 卒業して以来、継続して働いている
- ▨ 卒業して働いていたが、結婚・育児(出産)のため一時やめ、また働いている
- 卒業してから働いていたが、その他の事情で一時やめ、また働いている
- 卒業してから働いていなかったが、その後働いている
- 卒業してから働いていたが、結婚・育児(出産)のため仕事をやめた
- 卒業してから働いていたが、その他の事情で仕事をやめた
- ☒ これまで働いたことはない
- 定年退職により現在働いていない
- 現在学生である
- その他

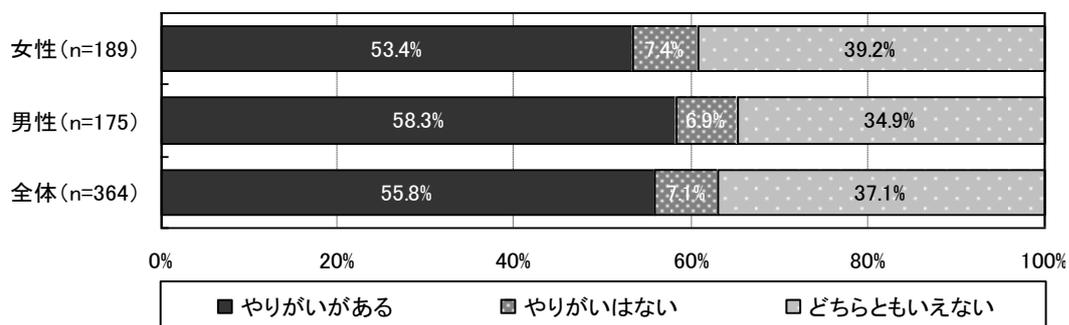
問 13 (副問 1) 現在働いている方におうかがいします。今の仕事はやりがいがありますか。あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

- ・全体では「やりがいがある」が約6割で最も高い。
- ・性別でみると「やりがいがある」では女性(61.2%)が男性(55.3%)より5.9ポイント高い。
- ・前回調査と比較すると、最も差がみられた「どちらともいえない」では今回(34.2%)が前回(37.1%)より2.9ポイント低い。

現在働いている人の仕事のやりがい感 (令和2年度)



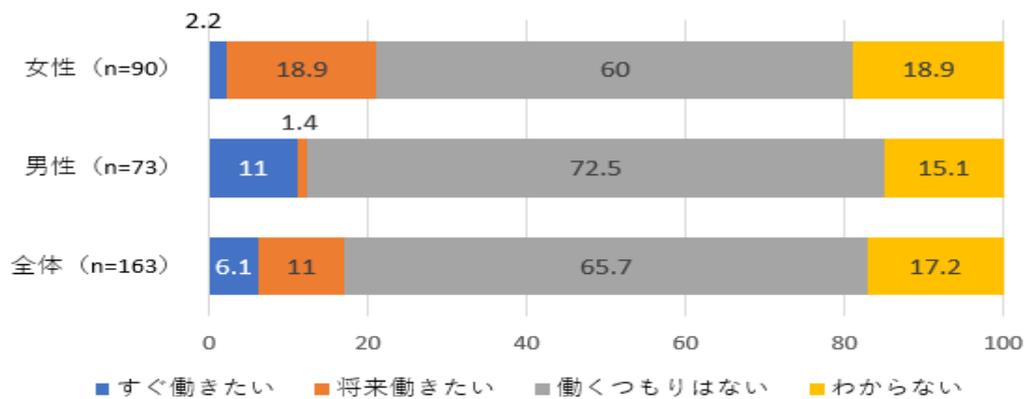
◇ 現在働いている人の仕事のやりがい感(SA) ◇ (平成 23 年度)



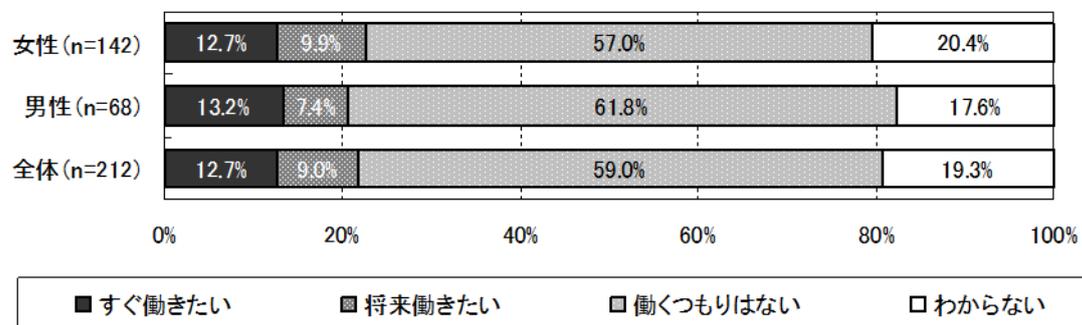
問 13 (副問 2) 現在働いていない方におうかがいします。あなたは、今後のご自身の仕事についてどう考えますか。あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選び、番号に○印をつけてください。

- ・全体では「働くつもりはない」が約6割半で最も高い。
- ・性別で見ると「すぐ働きたい」・「将来働きたい」と回答した女性(合計21.1%)が男性(合計12.4%)より8.7ポイント高い。
- ・前回調査と比較すると、最も差がみられた「働くつもりはない」では今回(65.7%)が前回(59.0%)より6.7ポイント高い。

今後の仕事についての考え方 (令和2年度)



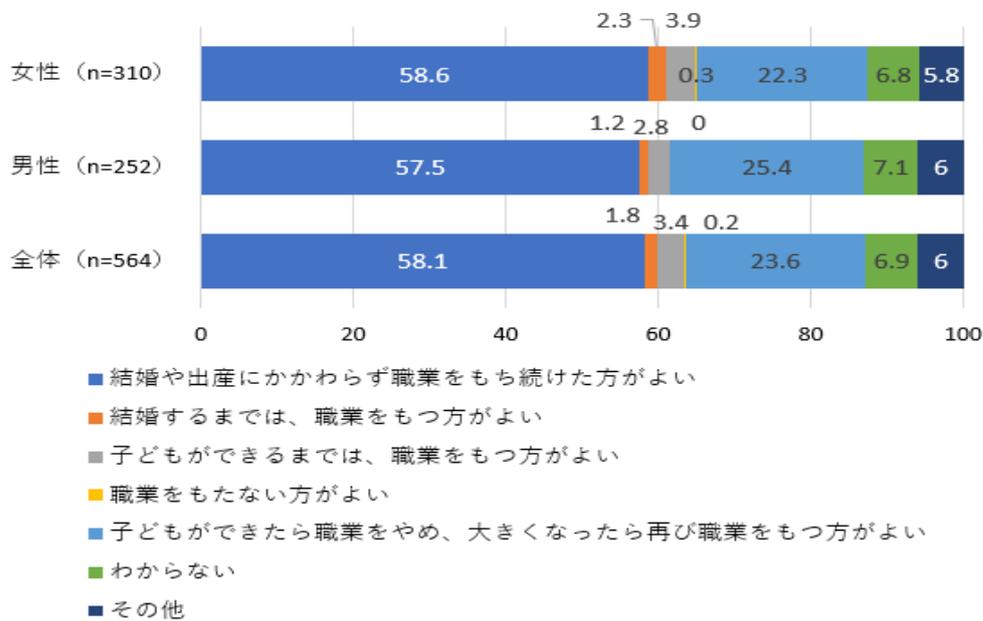
◇ 今後の仕事についての考え方(SA) ◇



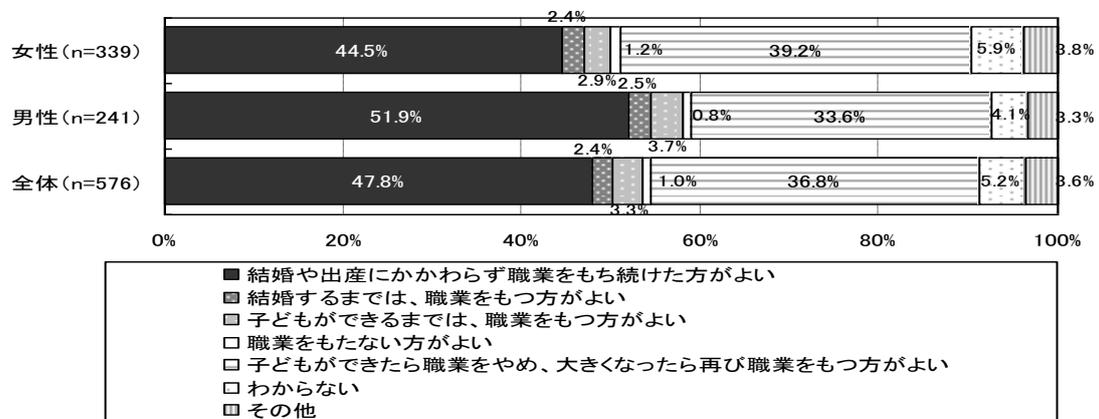
問 14.女性が職業をもつことについて、あなたはどのように思いますか。あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選び番号に○印をつけてください。

- ・全体では「結婚や出産にかかわらず職業をもち続けた方がよい」が約6割で最も高い。
- ・性別でみると「結婚や出産にかかわらず職業をもち続けた方がよい」と回答した女性（58.6%）が男性（57.5%）より1.1ポイント高い。
- ・前回調査と比較すると、最も差がみられた「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら職業をもつ方がよい」では今回（23.6%）が前回（36.8%）より13.2ポイント低い。

女性が職業をもつことについての考え方（令和2年度）



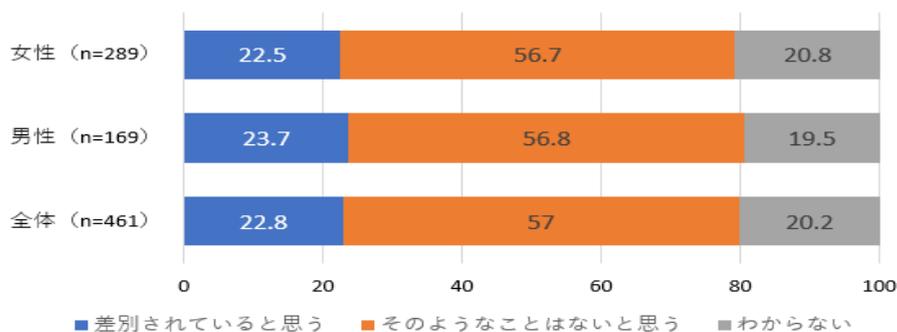
◇ 女性が職業をもつことについての考え方(SA) (平成23年度)



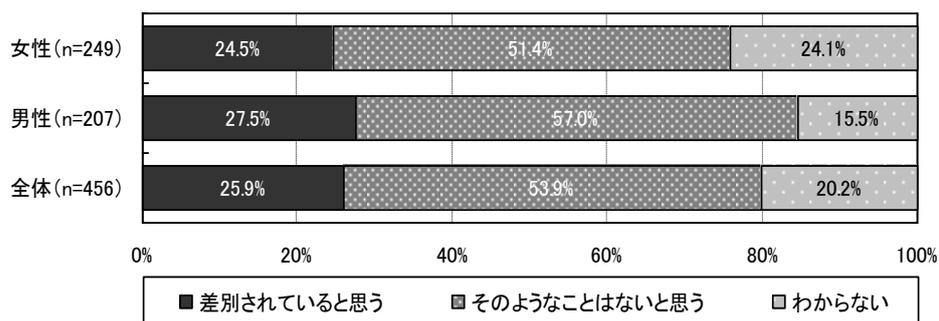
問 15.あなたの今の職場では、女性は男性に比べて仕事の内容や待遇面で差別されていると思いますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○印をつけてください。

- ・全体では「そのようなことはないと思う」が約6割で最も高い。
- ・性別でみると「そのようなことはないと思う」と回答した女性（56.7%）が男性（56.8%）より0.1ポイント低い。
- ・前回調査と比較すると、「差別されていると思う」・「そのようなことはないと思う」がいずれも3.1ポイント変動している。

職場での女性への差別感（令和2年度）

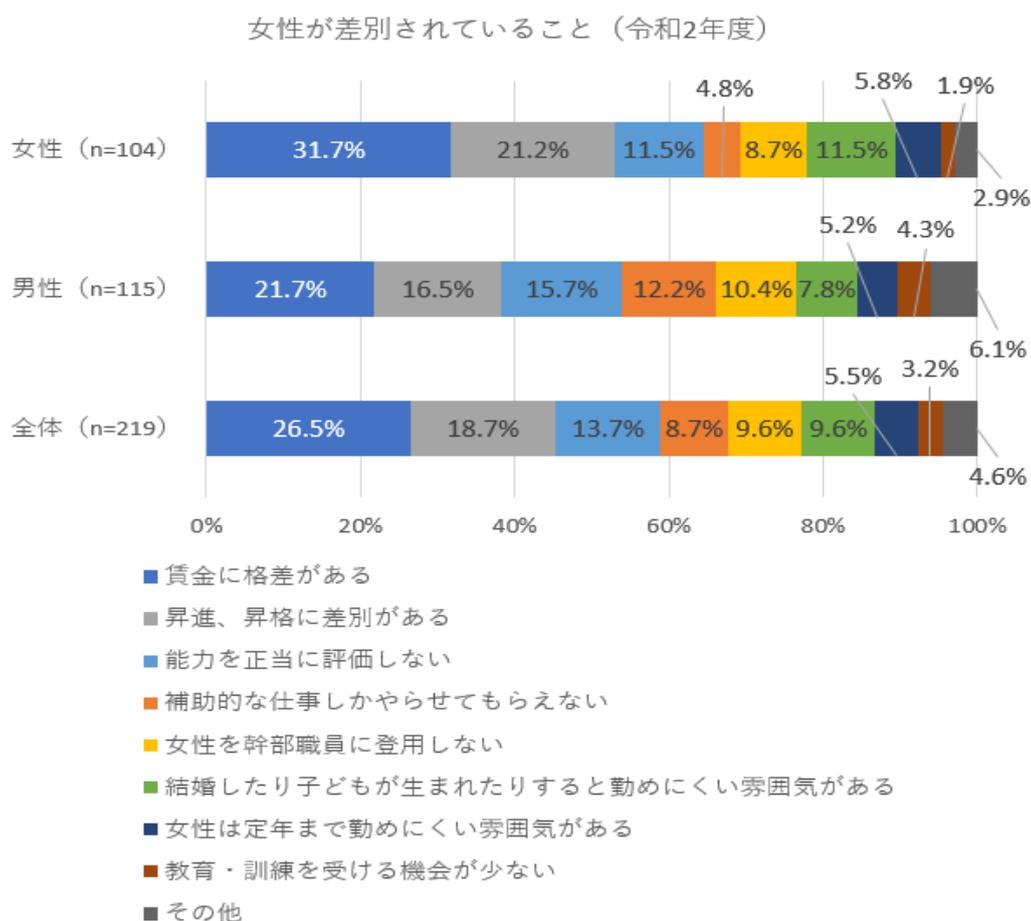


◇ 職場での女性への差別感(SA)（平成23年度）

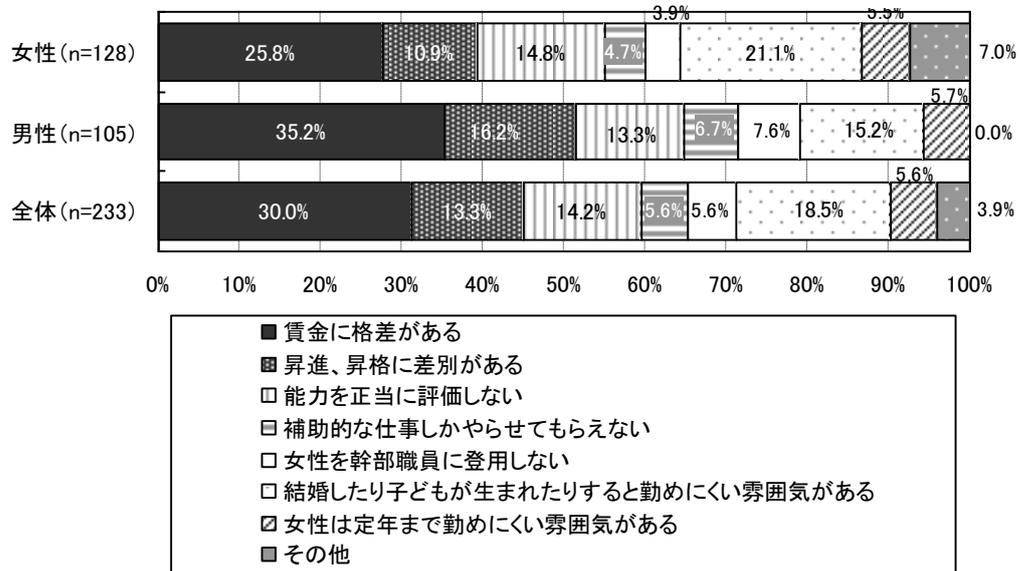


問 15 (副問 1)「差別されていると思う」と回答した方におうかがいします。それは具体的にどのようなことですか。あてはまるものを 2 つまで選び、番号に○印をつけてください。

- ・職場で「女性が差別されていると思う」と回答した方の全体では「賃金に格差がある」が約 2 割半で最も高い。
- ・性別でみると「賃金に格差がある」と回答した女性 (31.7%) が男性 (21.7%) より 10 ポイント高い。
- ・前回調査と比較すると、最も差がみられた「結婚したり子どもが生まれたりすると勤めにくい雰囲気がある」では今回 (9.6%) が前回 (18.5%) より 8.9 ポイント低い。



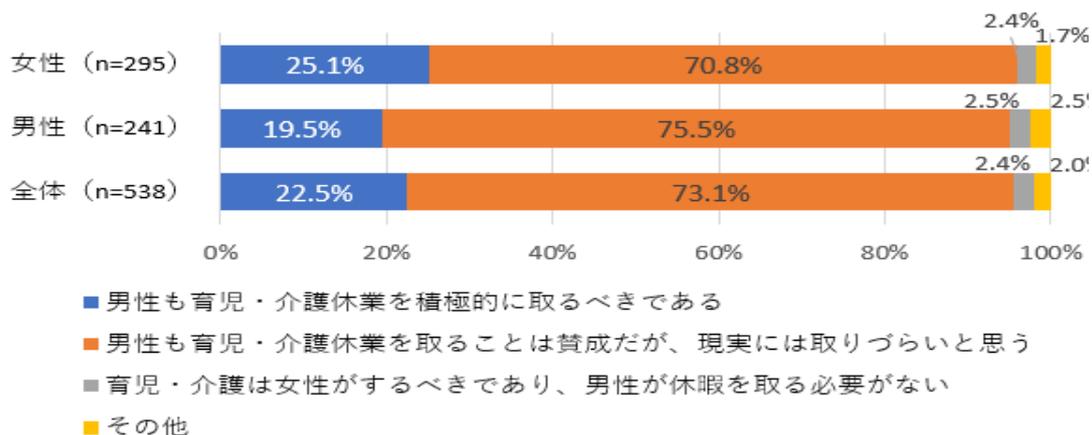
◇ 女性が差別されていること(MA) < (平成 23 年度)



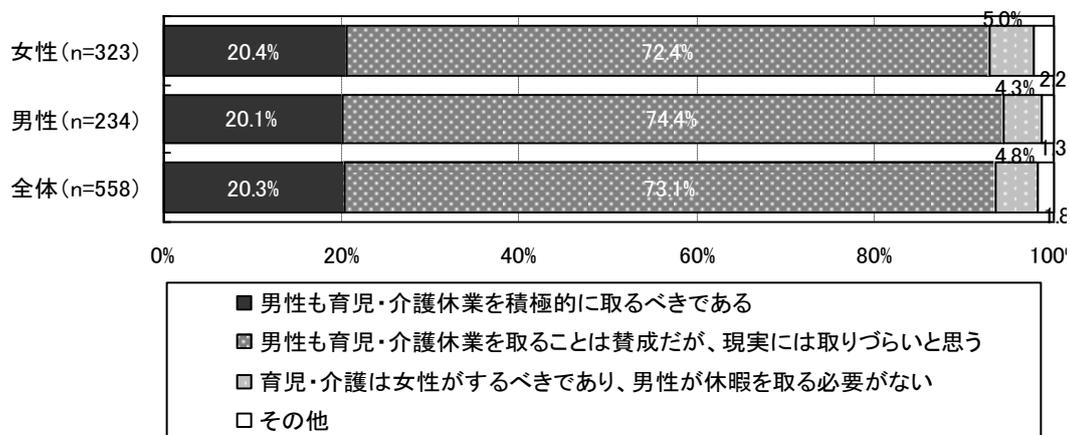
問 16.男性も育児・介護休業をとることができますが、このことについてあなたはどのように思いますか。あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選び、番号に○印をつけてください。

- ・全体では「男性も育児・介護休業をとることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」が約7割半で最も高い。
- ・性別でみると「男性も育児・介護休業をとることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」と回答した男性（75.5%）が女性（70.8%）より4.7ポイント高い。
- ・前回調査と比較すると、最も差がみられた「育児・介護は女性がするべきであり、男性が休暇を取る必要がない」では今回（2.4%）が前回（4.8%）より2.4ポイント低い。

今後の仕事についての考え方（令和2年度）

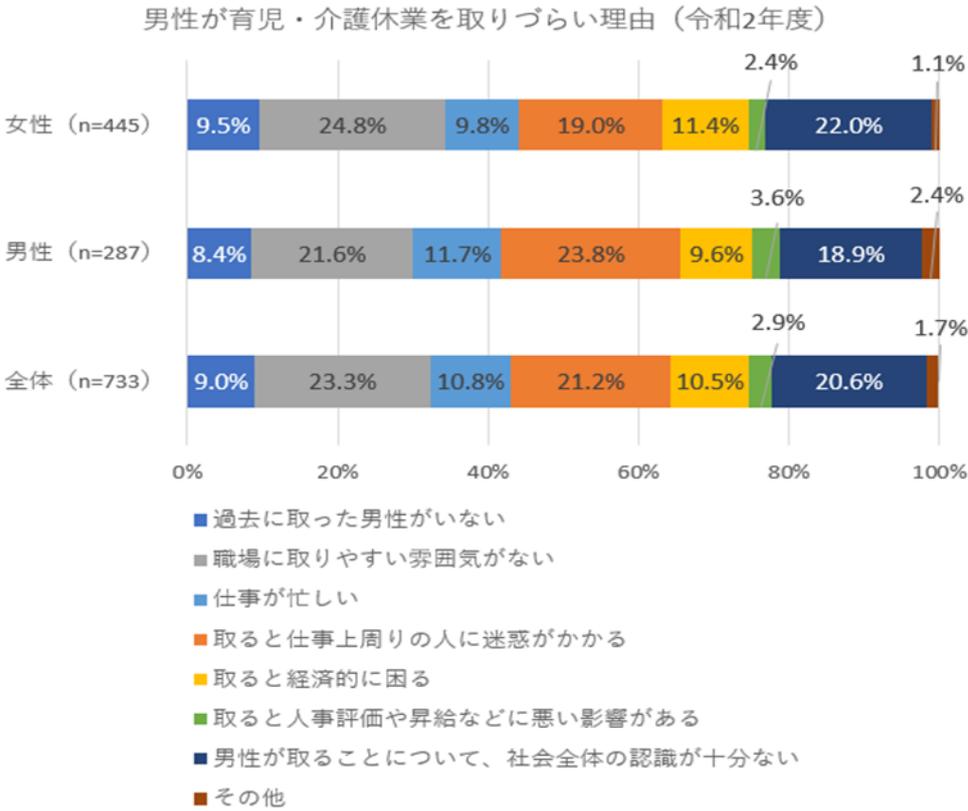


◇ 今後の仕事についての考え方(SA) ◀（平成 23 年度）



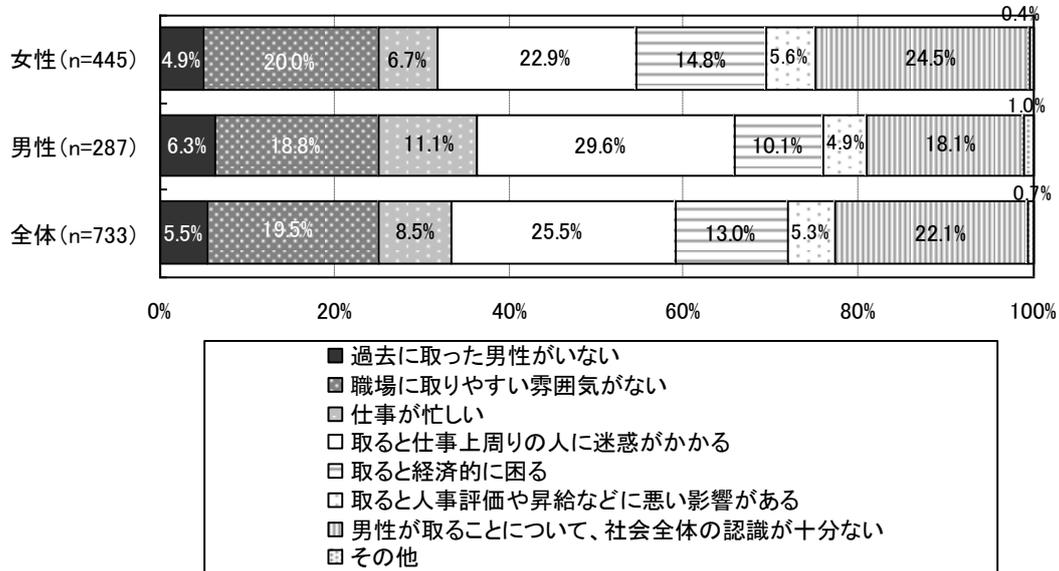
問 16 (副問 1) 「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実に取りづらいと思う」を選んだ方におうかがいします。現実に取りづらい理由は何だと思えますか。あてはまる番号を2つまで選び、番号に○印をつけてください。

- ・全体では「職場に取りやすい雰囲気がない」が約2割半で最も高い。
- ・性別でみると女性では「職場に取りやすい雰囲気がない」(24.8%)、男性では「取ると仕事上周りの人に迷惑がかかる」(23.8%)との回答が最も高い。
- ・前回調査と比較すると、最も差がみられた「取ると仕事上周りの人に迷惑がかかる」は今回(21.2%)が前回(25.5%)より4.3ポイント低い。



(平成 23 年度)

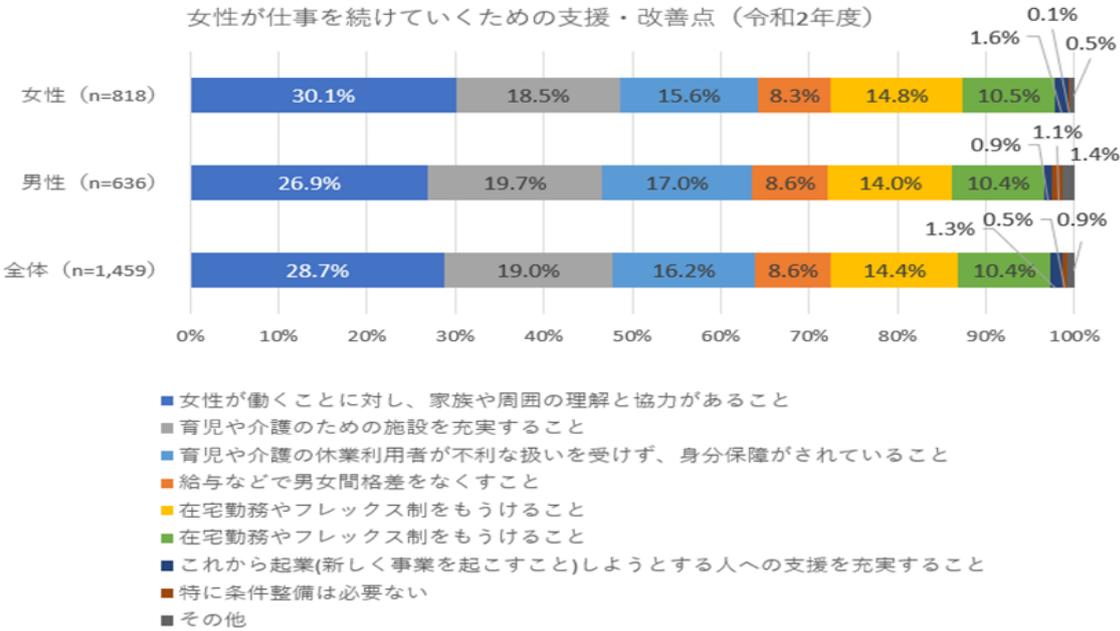
◇ 男性が育児・介護休業を取りづらい理由(MA) ◇



- 取ると経済的に困る
- 取ると人事評価や昇給などに悪い影響がある
- 男性が取ることについて、社会全体の認識が十分ない
- その他

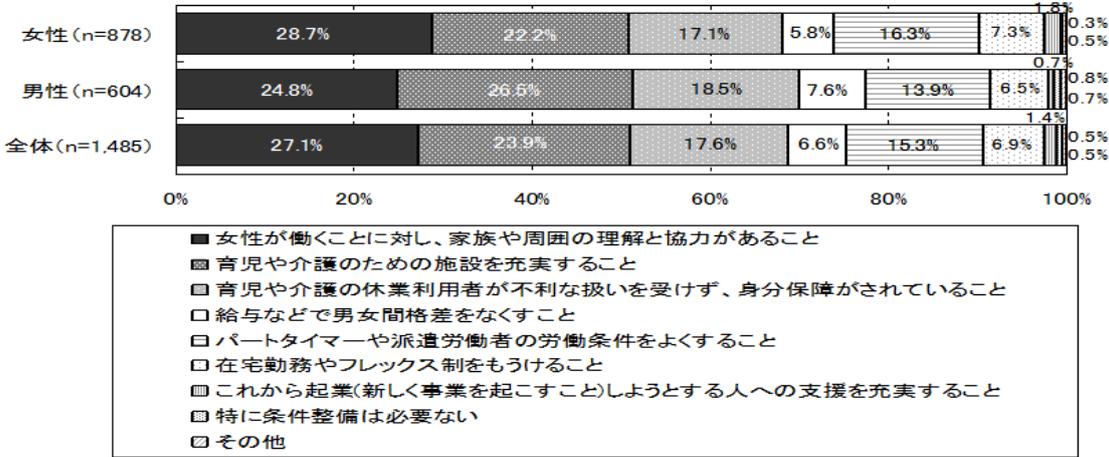
問 17.あなたは女性が仕事を続けていくためには、どのような支援改善が必要だと思いますか。必要だと思うものを3つまで選んでください。

- ・全体では「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が約3割で最も多い。
- ・性別でみると「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」と回答した女性（30.1%）が男性（26.9%）より3.2ポイント高い。
- ・前回調査と比較すると、最も差がみられた「育児や介護のための施設を充実すること」との回答は今回（19.0%）が前回（23.9%）より4.9ポイント低い。



(平成 23 年度)

◇ 女性が仕事を続けていくための支援・改善点(MA) ◇

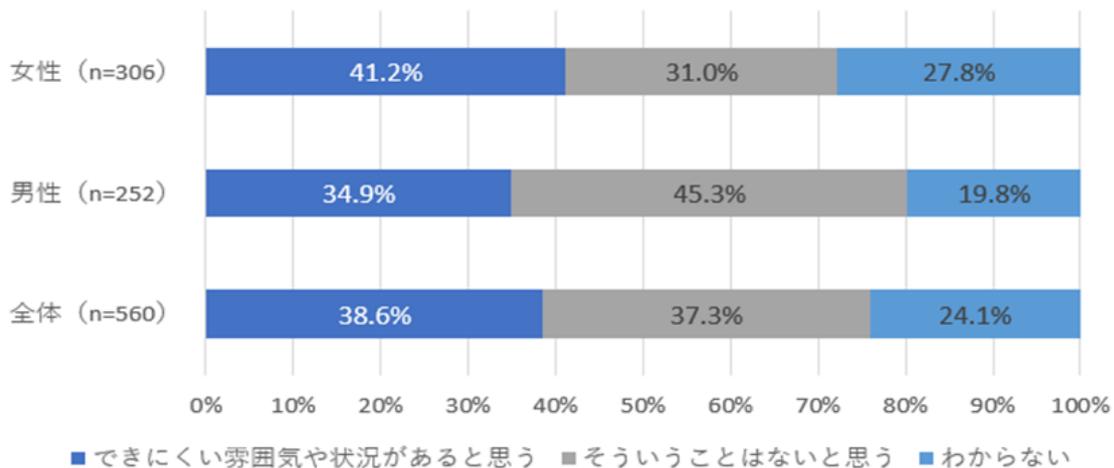


4. 地域活動について

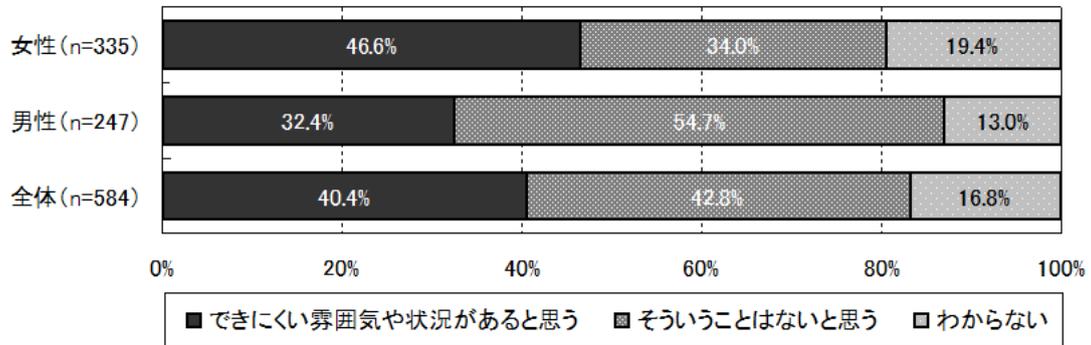
問 18.自治会などの集まりや作業の中で、女性も男性と共に参加したり、男性と同じように発言することができにくい雰囲気や状況はあると思いますか。あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選び、番号に○印をつけてください。

- ・全体では「できにくい雰囲気や状況があると思う」が約4割で最も多い。
- ・性別で見ると、女性は「できにくい雰囲気や状況があると思う」(41.2%)が、男性は「そういうことはないと思う」(45.3%)で最も多く、「そういうことはないと思う」と回答した女性は(31.0%)で男性が14.3ポイント高い。
- ・前回調査と比較すると、最も差がみられた「わからない」との回答は、今回(24.1%)が前回(16.8%)より7.3ポイント高い。

地域の集まり等での女性の発言（令和2年度）

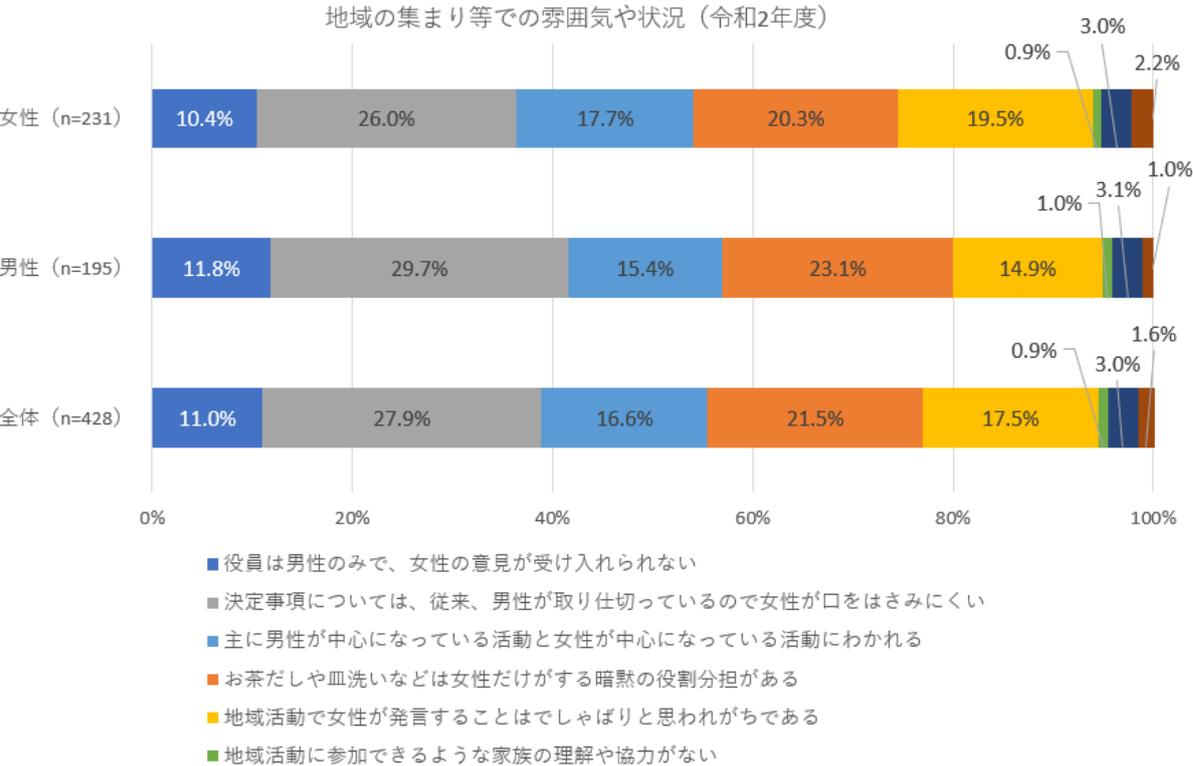


◇ 地域の集まり等での女性の発言(SA) ◇ (平成 23 年度)

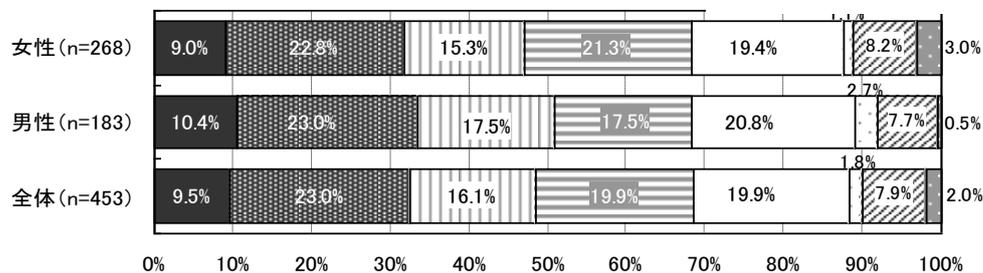


問 18 (副問 1)「できにくい雰囲気や状況があると思う」と答えた方におうかがいします。それはどんな雰囲気や状況だと思いますか。あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選び、番号に○印をつけてください。

- ・全体では「決定事項については、従来、男性が取り仕切っているので女性が口をはさみにくい」が約3割で最も多い。
- ・性別で見ると、女性・男性共に「決定事項については、従来、男性が取り仕切っているので女性が口をはさみにくい」が最も多く、女性(26.0%)より男性(29.7%)が3.7ポイント高い。
- ・前回調査と比較すると、差がみられた回答は「決定事項については、従来、男性が取り仕切っているので女性が口をはさみにくい」(27.9%)及び「参加する女性側の努力がまだ足りない」(3.0%)で前回(23.0%)・(7.9%)より4.9ポイント差がある。



◇ 地域の集まり等での雰囲気や状況(MA) (平成23年度)



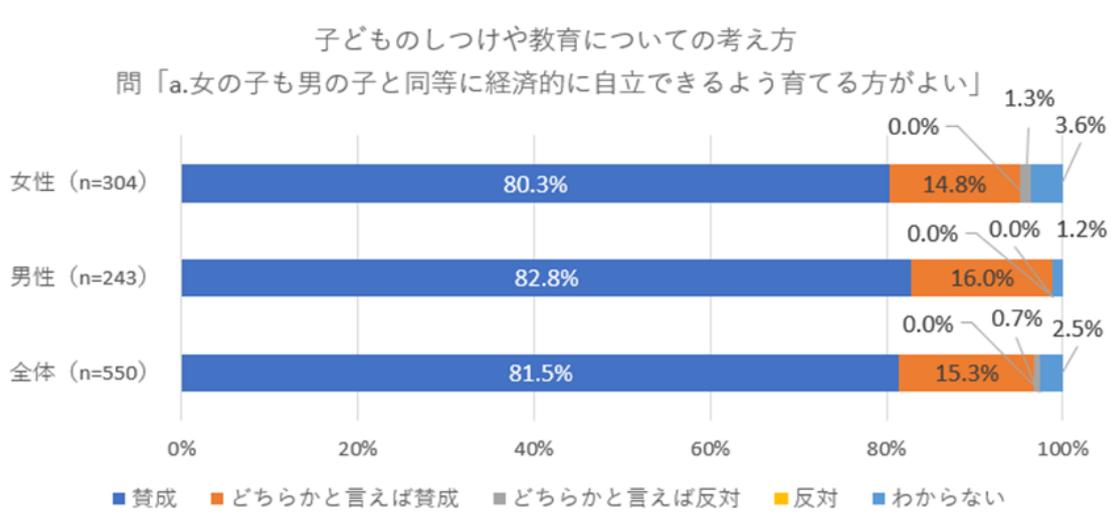
- 役員は男性のみで、女性の意見が受け入れられない
- ▣ 決定事項については、従来、男性が取り仕切っているので女性が口をはさみにくい
- 主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動にわかれる
- お茶だしや皿洗いなどは女性だけがする暗黙の役割分担がある
- 地域活動で女性が発言することはでしゃばりと思われがちである
- 地域活動に参加できるような家族の理解や協力が無い
- ▣ 参加する女性側の努力がまだ足りない
- その他

5. 教育について

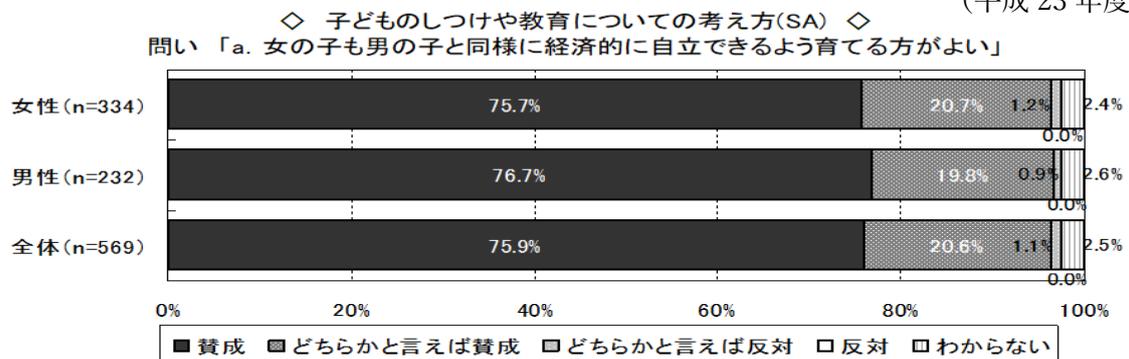
問 19.あなたは子どものしつけや教育について、どのようなお考えをお持ちですか。次の (a) ~ (d) のそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選び、○印をつけてください。

問「a. 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう育てる方がよい」

- ・全体では「賛成」約8割で最も多い。「反対」とした回答はない。
- ・性別でみると「賛成」・「どちらかと言えば賛成」の割合に差異はあまりなかったが、「どちらかと言えば反対」は男性（0%）に対して、女性は（1.3%）。
- ・前回調査と比較すると、最も差がみられた「賛成」との回答は、今回（81.5%）が前回（75.9%）より5.6ポイント高い。

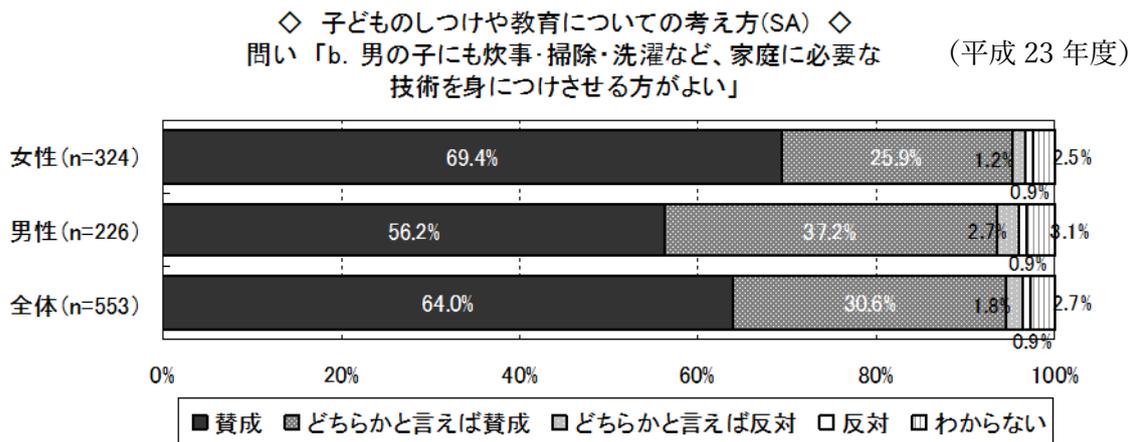
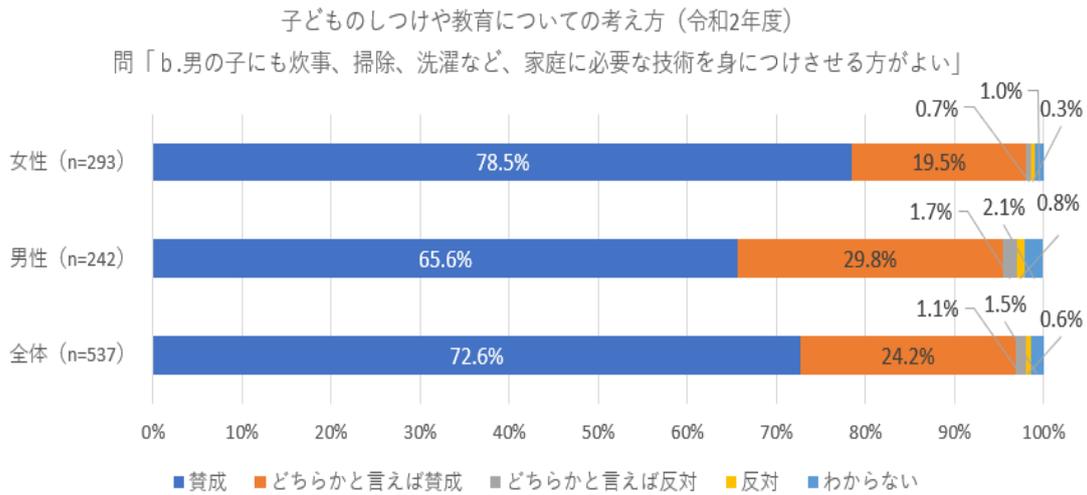


(平成 23 年度)



問「b. 男の子にも炊事・掃除・洗濯など家庭に必要な技術を身につけさせる方がよい」

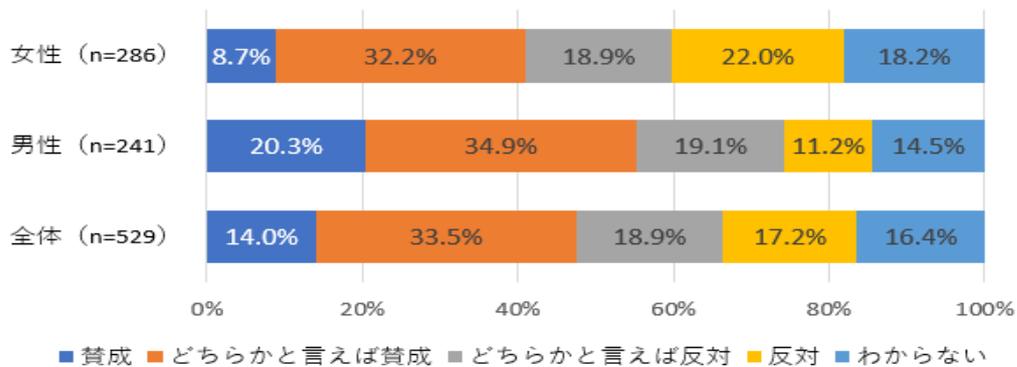
- ・全体では「賛成」が約7割で最も多い。
- ・性別でみると「賛成」は女性（78.5%）が男性（65.6%）より12.9ポイント高く、「どちらかと言えば賛成」は男性（29.8%）が女性（19.5%）を10.3ポイント高い。
- ・前回調査と比較すると、最も差がみられた「賛成」との回答は、今回（72.6%）が前回（64.0%）より8.6ポイント高い。



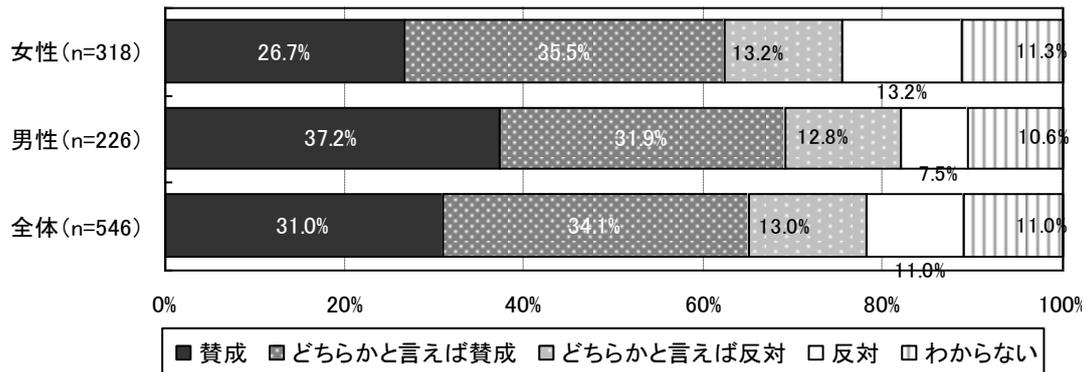
問「c. 女の子は女らしく、男の子らしく育てる方がよい」

- ・全体では「どちらかと言えば賛成」が約3割で最も多い。
- ・性別で見ると「賛成」は男性（20.3%）が女性（8.7%）より11.6ポイント高い。「反対」は女性（22.0%）が男性（11.2%）より10.8ポイント高い。
- ・前回調査と比較すると、全体で最も差がみられた「賛成」は、今回（14.0%）が前回（31.0%）より17.0ポイント低い。

子どものしつけや教育についての考え方（令和2年度）
問「c. 女の子は女らしく、男は男らしく育てる方がよい」

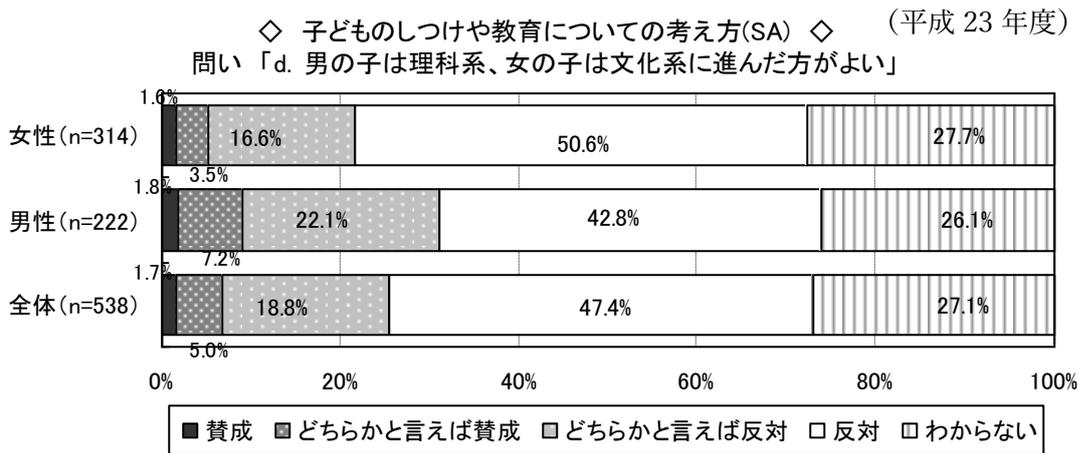
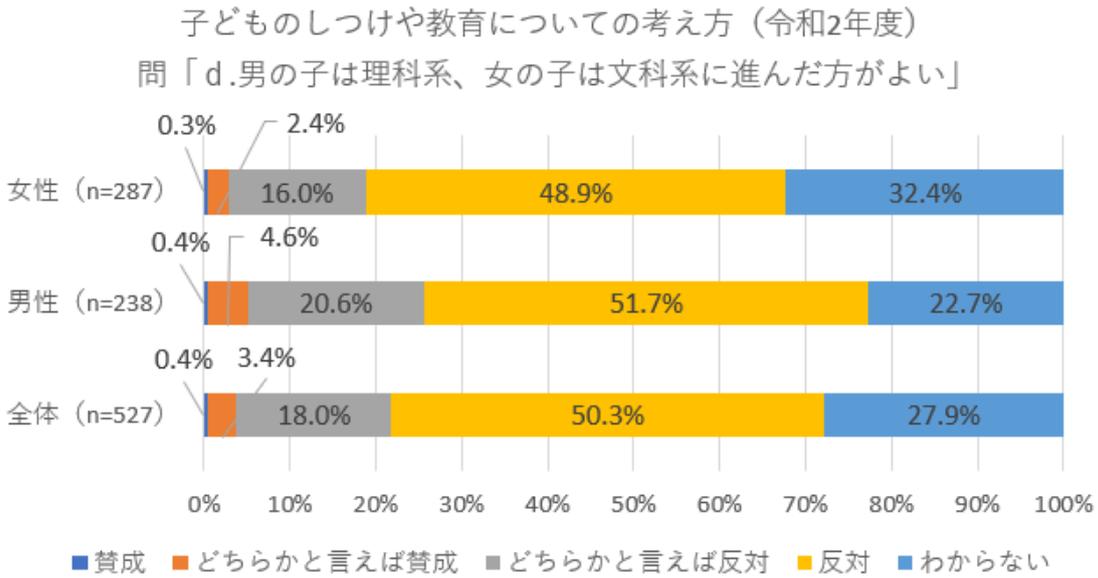


◇ 子どものしつけや教育についての考え方(SA) ◇ （平成23年度）
問い「c. 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てる方がよい」



問「d. 男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方がよい」

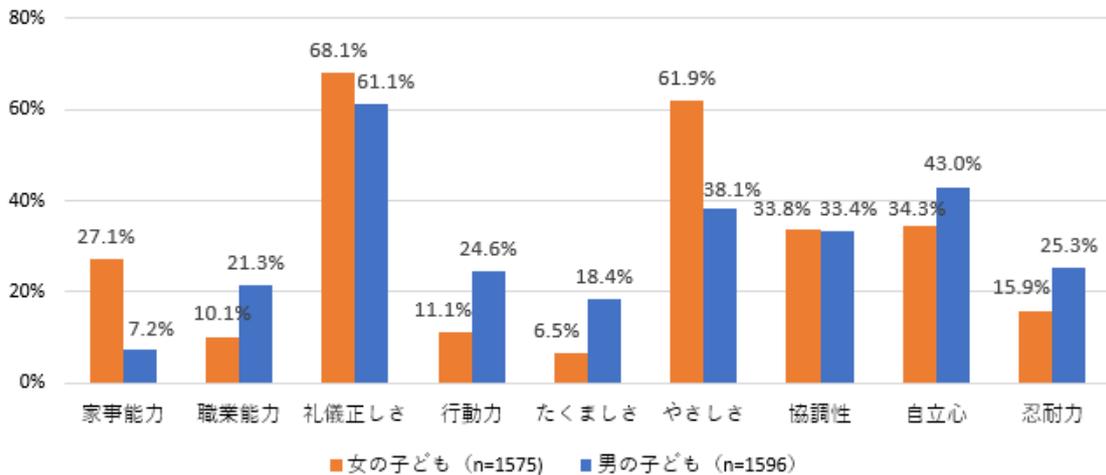
- ・全体では「反対」が約5割で最も多い。
- ・性別で見ると、「反対」は男性（51.7%）が女性（48.9%）より2.8ポイント高い。「どちらかと言えば反対」は男性（20.6%）が女性（16.0%）より4.6ポイント高い。
- ・前回調査と比較すると、全体で最も差がみられた「反対」は、今回（50.3%）が前回（47.4%）より2.9ポイント高い。



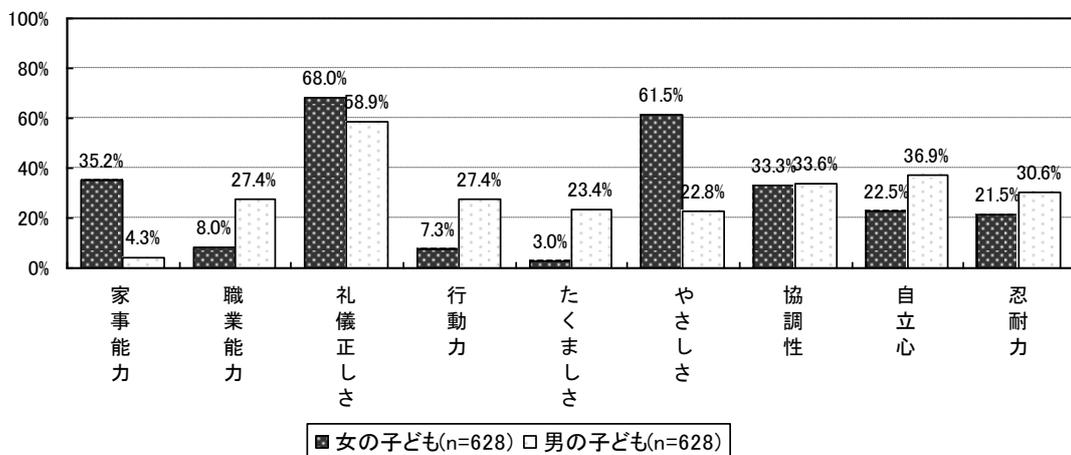
問 20.すべての方におうかがいします。家庭における子どもの育て方についておうかがいします。男の子ども・女の子ども別にしつけ・教育で気づかっているものを男女各々3つ以内で選び、番号に○印をつけてください。

- ・全体では「礼儀正しさ」が、女の子ども (68.1%) 男の子ども (61.1%) で最も多い。
- ・女の子どもは「やさしさ」(61.9%)、「自立心」(34.3%)「協調性」(33.8%)、男の子どもは「自立心」(43.0%)、「やさしさ」(38.1%)、「協調性」(33.4%)と続いている。
- ・前回調査と比較すると、女の子どもは「自立心」(34.3%)が前回(22.5%)より11.8ポイント、男の子どもは「やさしさ」(38.1%)が前回(22.8%)より15.3ポイント高く最も差がみられる。

子どものしつけ・教育で気づかっていること (令和2年度)



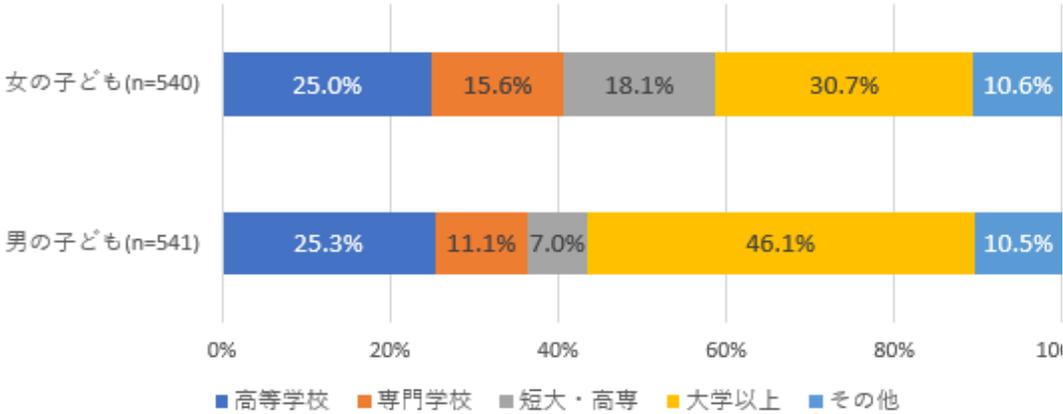
◇ 子どものしつけ・教育で気づかっていること(MA) ◇ (平成23年度)



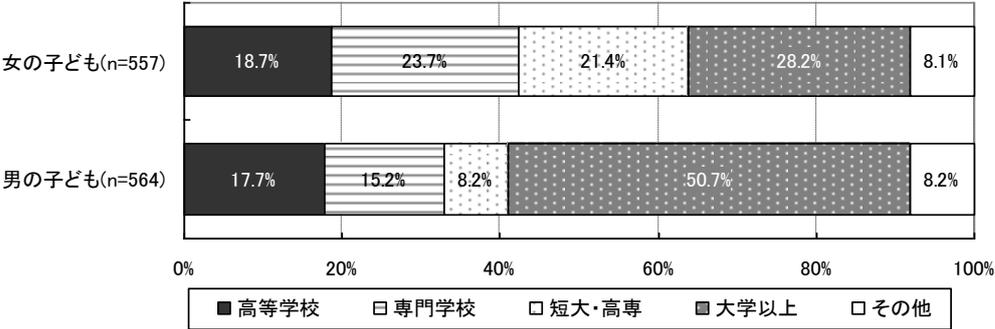
問 21.あなたの子どもの学歴はどこまで必要だと思えますか。(a)、(b)のそれぞれについてあなたの考えに最も近いものを1つずつ選び、番号に○印をつけてください。

- ・全体では、女の子どもは約3割・男の子どもは約4割半が「大学以上」で最も多い。
- ・「大学以上」は15.4ポイント、「短大・高専」では11.1ポイント男女間に高低がある。
- ・前回調査と比較すると、女の子どもは「専門学校」(15.6%)が前回(23.7%)より8.1ポイント低く、男の子どもは「高等学校」(25.3%)が前回(17.7%)より7.6ポイント高く最も差がみられる。

子どもの最終学歴への希望 (令和2年度)



◇ 子どもの最終学歴への希望(SA) ◇ (平成23年度)



6. 女性の人権について

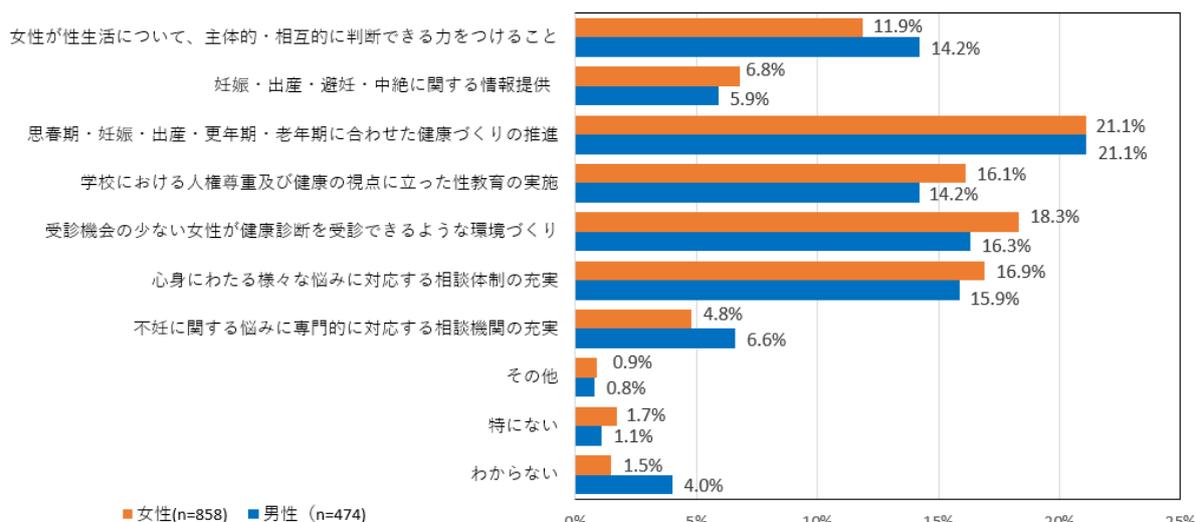
問 22.妊娠・出産を担う女性は、男性と異なった体や心の問題に直面することがありますが、女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために、どのようなことが大事だと思いますか。あなたのお考えに最も近いものを3つまで選び、番号に○印をつけてください。

女性・男性共に「思春期・妊娠・出産・更年期・老年期に合わせた健康づくりの推進」が(21.1%)で最も多い。

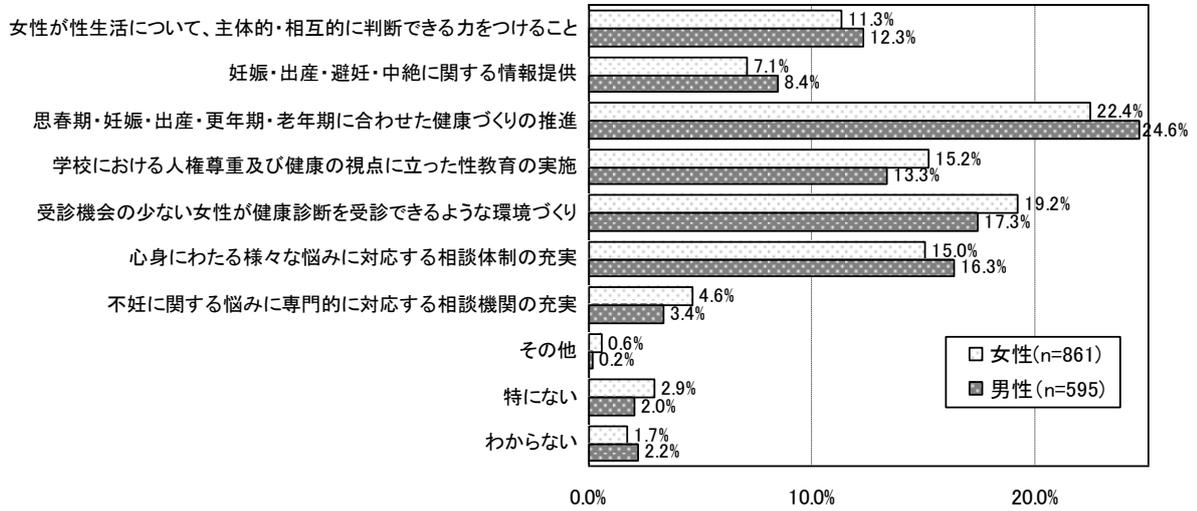
・続いて「受診機会の少ない女性が健康診断を受診できるような環境づくり」女性(18.3%)男性(16.3%)、「心身にわたる様々な悩みに専門的に対応する相談体制の充実」女性(16.9%)男性(15.9%)が多い。

・前回調査と比較すると、女性では「心身にわたる様々な悩みに専門的に対応する相談体制の充実」(16.9%)が前回(15.0%)より1.9ポイント高く、男性では「思春期・妊娠・出産・更年期・老年期に合わせた健康づくりの推進」が前回(15.0%)より3.5ポイント低く最も差がみられる。

女性の生涯で心身の健康のために必要なこと（令和2年度）



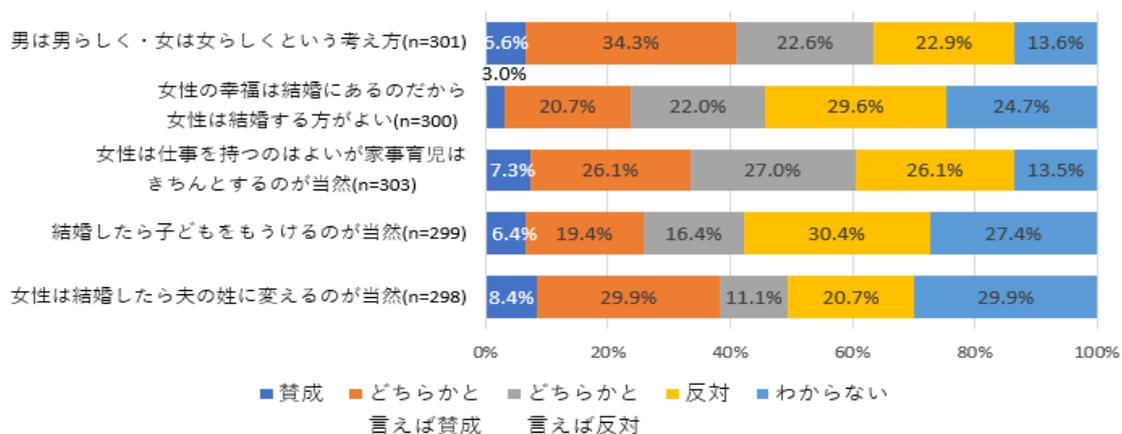
◇ 女性の生涯で心身の健康のために必要なこと(MA) ◇ (平成 23 年度)



問 23. 次の各項目について、あなたはどのように思われますか。あなたのご意見に最も近いものを1つだけ選び、番号に○印をつけてください。

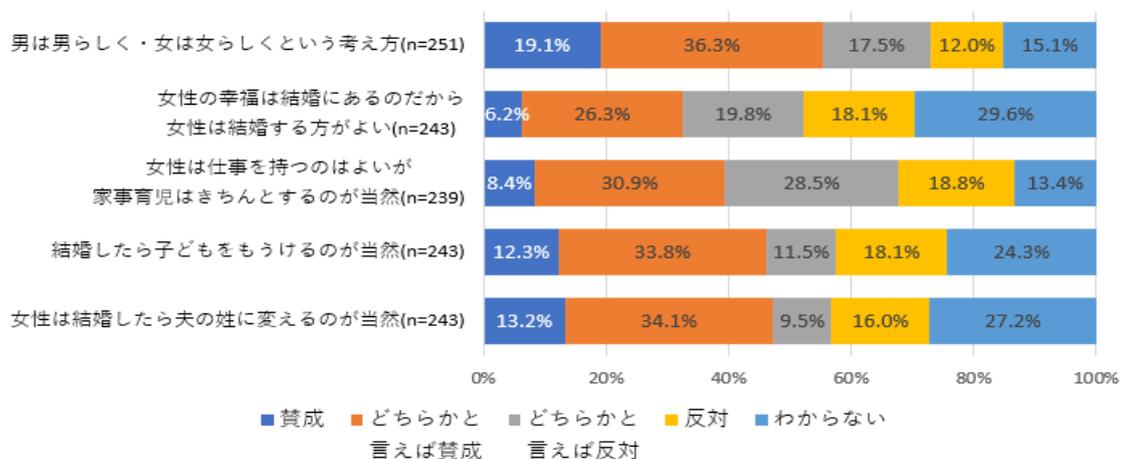
- ・全体では、肯定的な回答（賛成・どちらかといえば賛成）は『「男は男らしく」「女は女らしく」という考え方』が（47.4%）で最も高く、「女性の幸福は結婚にあるのだから女性は結婚する方がよい」（27.6%）が最も低い。
- ・女性は、男性・女性の固定的な考え方について「女性は結婚したら夫の姓に変えるのが当然」以外の項目で否定的な回答が肯定的な回答を上回っている

男女の固定的な考え方・女性（令和2年度）

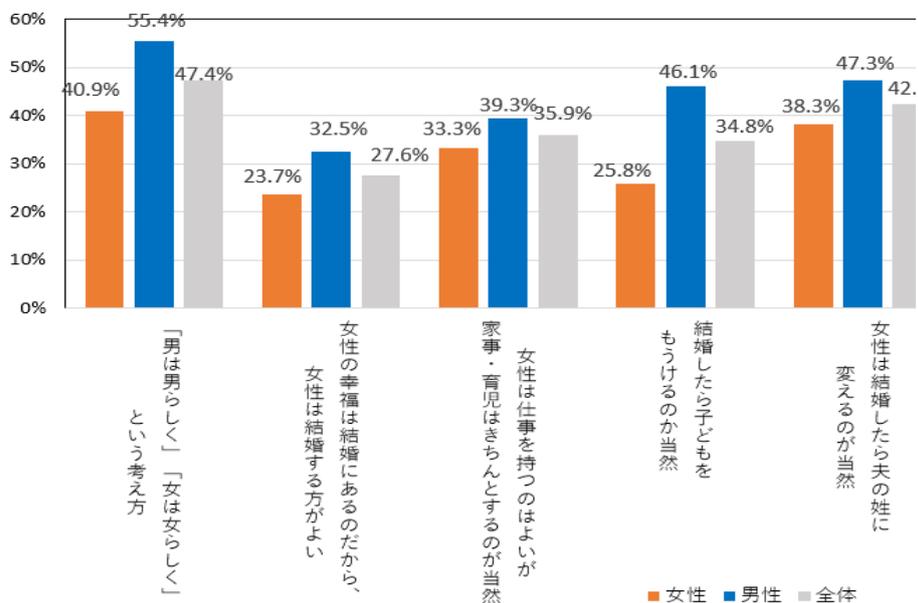


- ・男性は、「女性の幸福は結婚にあるのだから女性は結婚する方がよい」・「女性は仕事を持つのはよいが家事育児はきちんとするのが当然」以外の項目では肯定的な回答が上回っている。

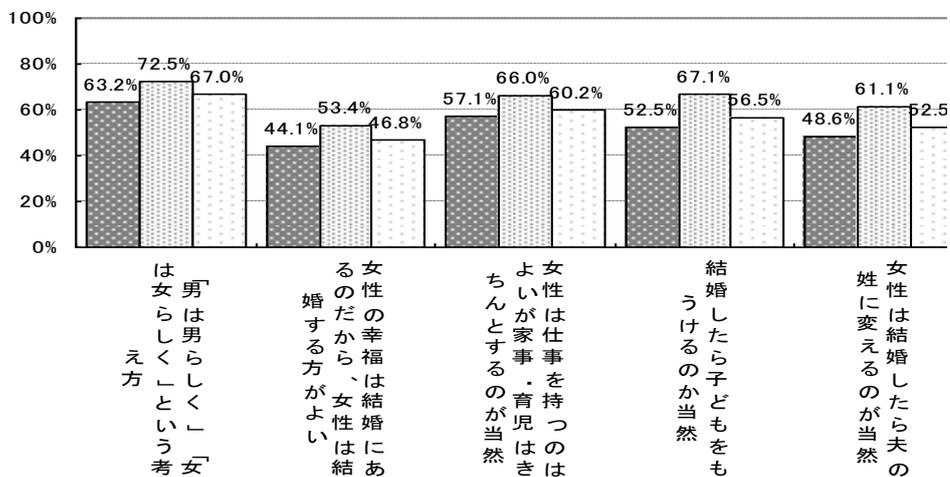
男女の固定的な考え方・男性（令和2年度）



男女の固定的な考え方「賛成・どちらかといえば賛成」の比率（令和2年）



◇ 男女の固定的な考え方[賛成+どちらかといえば賛成]の比率（平成23年度）

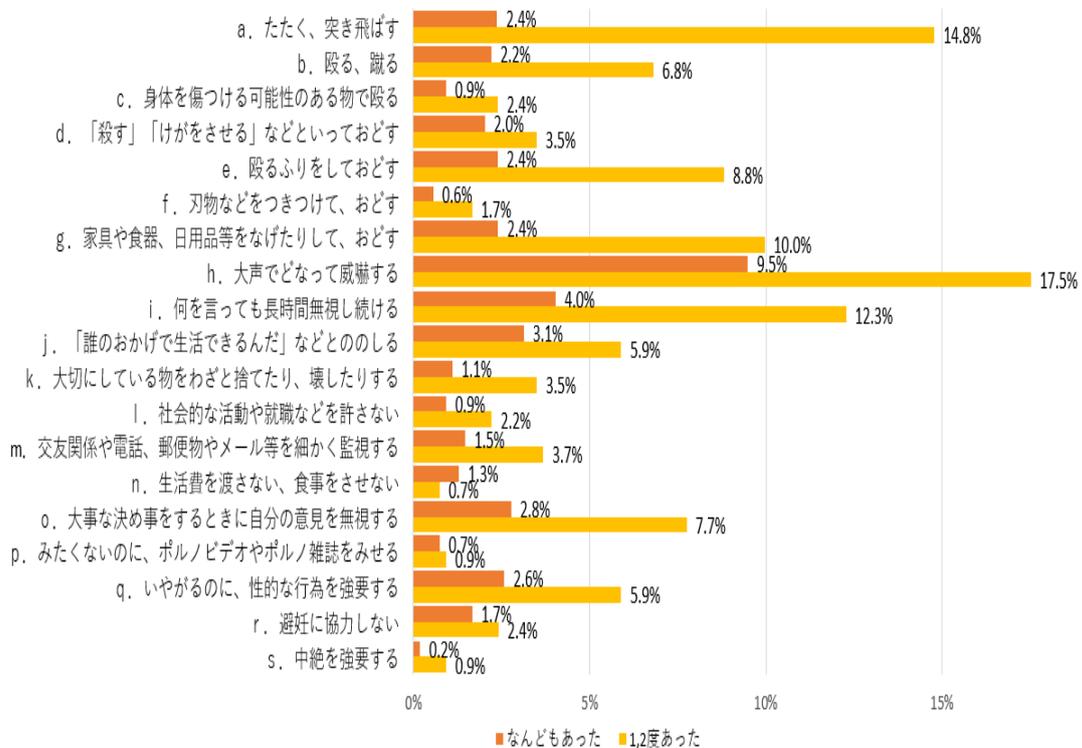


7. ドメスティック・バイオレンス（夫婦・恋人間の暴力）について

問 24.あなたはこれまでに、配偶者や恋人など親しい人間関係にある人との間で、次のようなことを受けたことがありますか。(a)~(s)のそれぞれについてあてはまるものすべての番号に○印をつけてください。

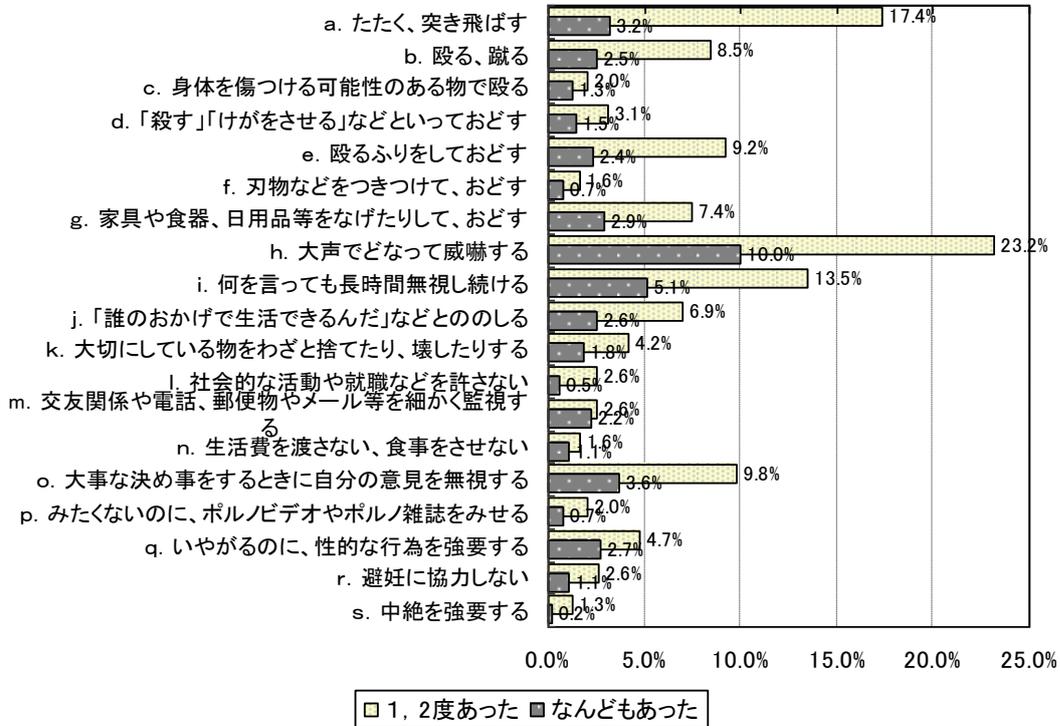
- ・全体では「h. 大声でどなって威嚇する（1、2度あった）」（17.5%）が最も多い。
- ・（1、2度あった）では「a. たたく、突き飛ばす」（14.8%）「i. 何を言っても長時間無視し続ける」（12.3%）「g. 家具や食器、日用品等をなげたりして、おどす」（10.0%）の割合が高い。
- （なんどもあった）では「h. 大声でどなって威嚇する」（9.5%）「i. 何を言っても長時間無視し続ける」（4.0%）「j. 誰のおかげで生活できるんだなどののしる」（3.1%）割合が高い。

ドメスティック・バイオレンス（配偶者・恋人間の暴力）の現状（令和2年度）



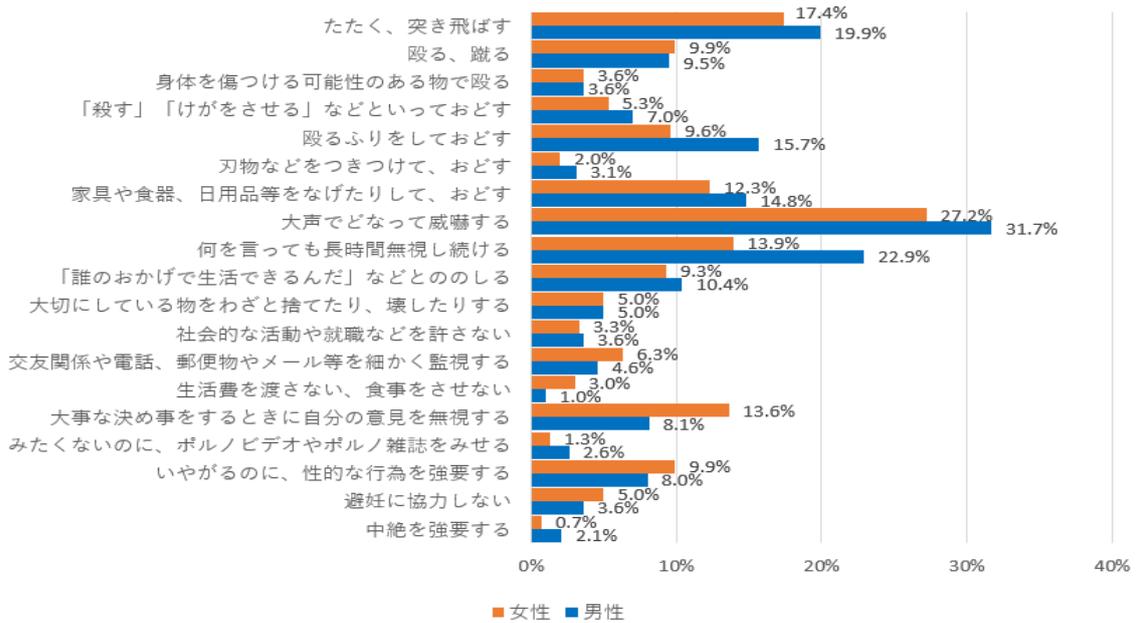
(平成 23 年度)

◇ ドメスティック・バイオレンス(配偶者・恋人間の暴力)の現状(MA) ◇

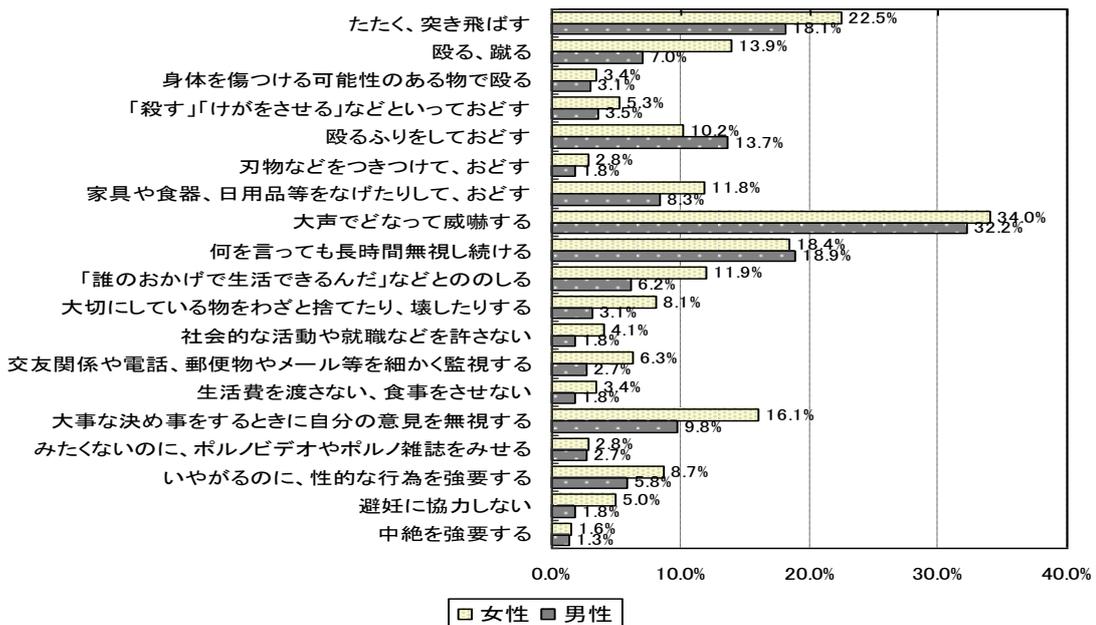


- ・男女別の回答率で大きな差がある項目は、「何を言っても長時間無視し続ける」、「大事な決め事をするときに自分の意見を無視する」、「大声でどなって威嚇する」だった。
- ・前回調査と比較すると「h. 大声でどなって威嚇する（1、2度あった）」（17.5%）では前回（23.3%）より5.8ポイント低く、最も差がみられた。

ドメスティック・バイオレンス（配偶者・恋人間の暴力）の現状（令和2年度）



◇ ドメスティック・バイオレンス（配偶者・恋人間の暴力）の現状・男女の回答率(MA) (平成23年度)

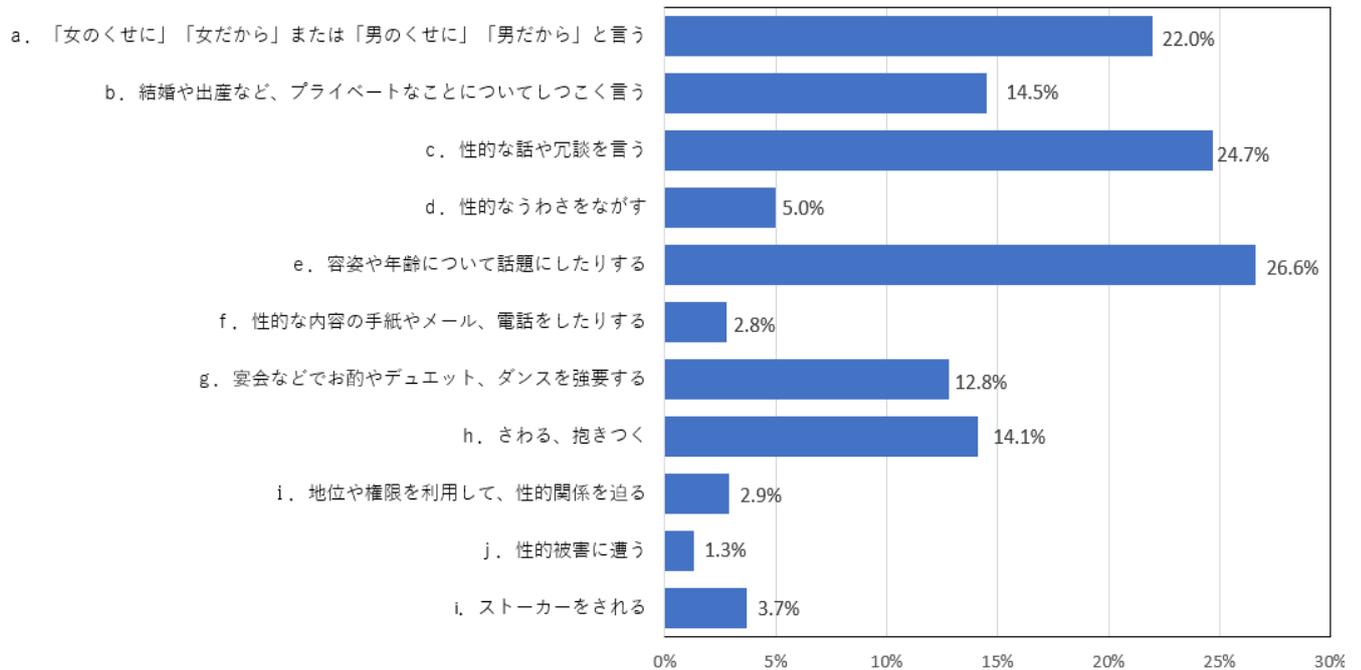


8. セクシュアル・ハラスメント等について

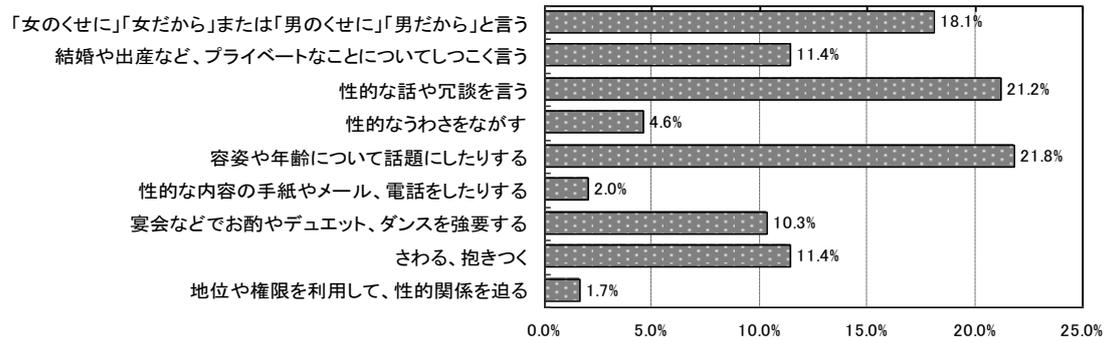
問 25.あなたは、これまでに、次のような行為を、職場の上司・同僚、学校やサークルなどの指導者・関係者、近所や地域などで付き合いのある人にされたことがありますか。次の(a)~(k)のそれぞれについて、あてはまるものをすべての番号に○印をつけてください。

- ・「されたことがある」との回答では「e. 容姿や年齢について話題にしたりする」が約 2 割半で最も多い。
- ・「性的な話や冗談を言う」(24.7%)『女のくせに』『女だから』または『男にくせに』『男だから』と言う」(22.0%) の割合も高い。
- ・前回調査と比較すると「e. 容姿や年齢について話題にしたりする」(26.6%) が前回調査 (21.8%) より 4.8 ポイント高く、最も差がみられる。

セクシュアル・ハラスメントの実態「されたことがある」(令和2年度)

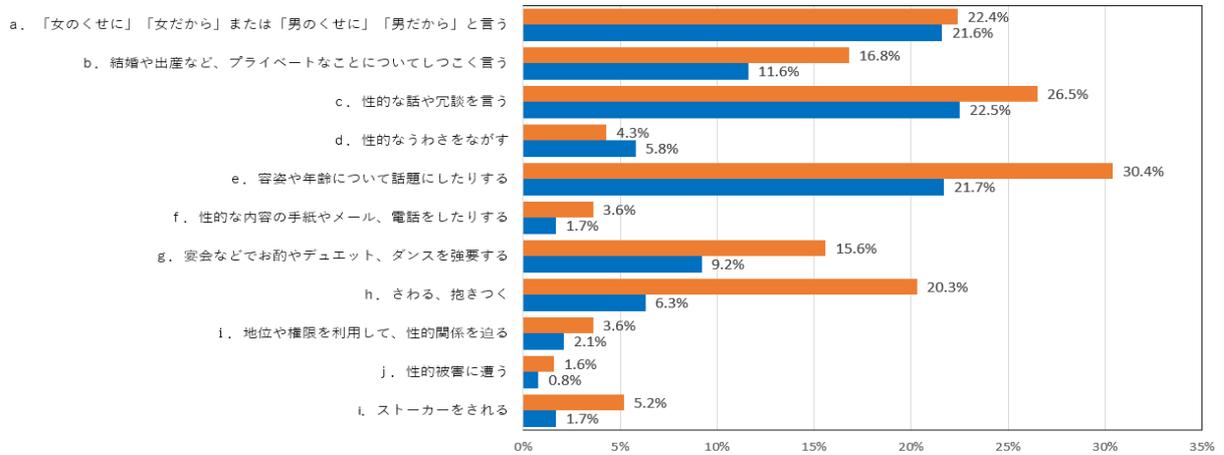


◇ セクシャル・ハラスメントの実態・「されたことがある」(MA) ◇ (平成 23 年度)

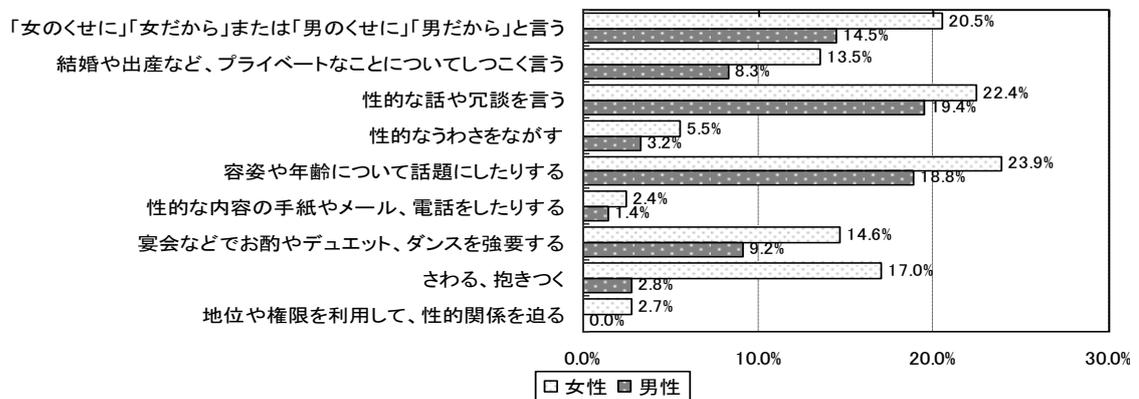


・女性・男性の回答では「h. さわる、抱きつく」(女性 20.3%・男性 6.3%)「e. 容姿や年齢について話題にしたりする」(女性 30.4%・男性 21.7%)「b. 結婚や出産など、プライベートなことについてしつこく言う」(女性 16.8%・男性 11.6%)「性的な話や冗談を言う」(女性 26.5%・男性 22.5%)の各項目で、女性の割合が高くなっている。

セクシュアル・ハラスメントの実態「されたことがある」(令和2年度)



◇ セクシャル・ハラスメントの実態・「されたことがある」・男女の回答率(MA) (平成 23 年度)

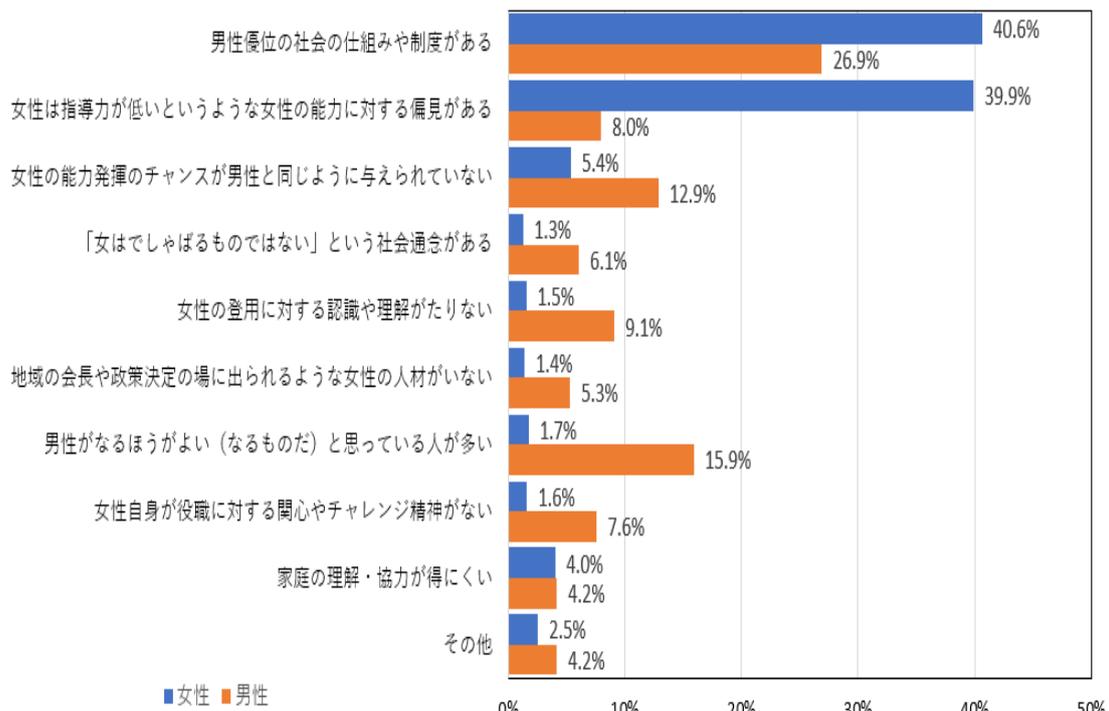


9. 女性の参画の施策への要望などについて

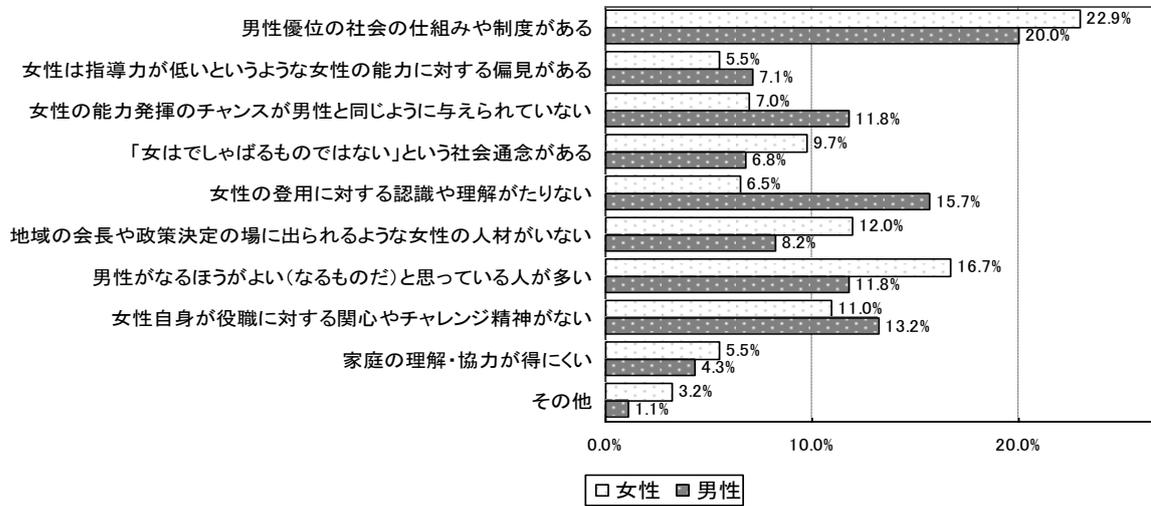
問 26.女性の社会進出が進んでいますが、議員や審議会委員、町内会の長などにはまだ女性が少ないのが現状です。このように男女の参画が少ない理由は何だと思えますか。あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選び、番号に○印をつけてください。

- ・女性・男性共に「男性優位の社会の仕組みや制度がある」(女性 40.6%・男性 26.9%)が最も高い。
- ・女性は「男性になるほうがよい(なるものだ)と思っている人が多い」(15.9%)「女性の能力発揮のチャンスが男性と同じように与えられていない」(12.9%)の割合が高く、男性では「女性は指導力が低いというような女性の能力に対する偏見がある」(39.9%)女性の能力発揮のチャンスが男性と同じように与えられていない」(5.4%)の割合が高い。
- ・前回調査と比較すると女性は「男性優位の社会の仕組みや制度がある」が前回調査(22.9%)より 17.7 ポイント、男性は前回調査(20.0%)より 6.9 ポイント高く、最も差がみられる。

女性の参画が少ない理由(令和2年度)



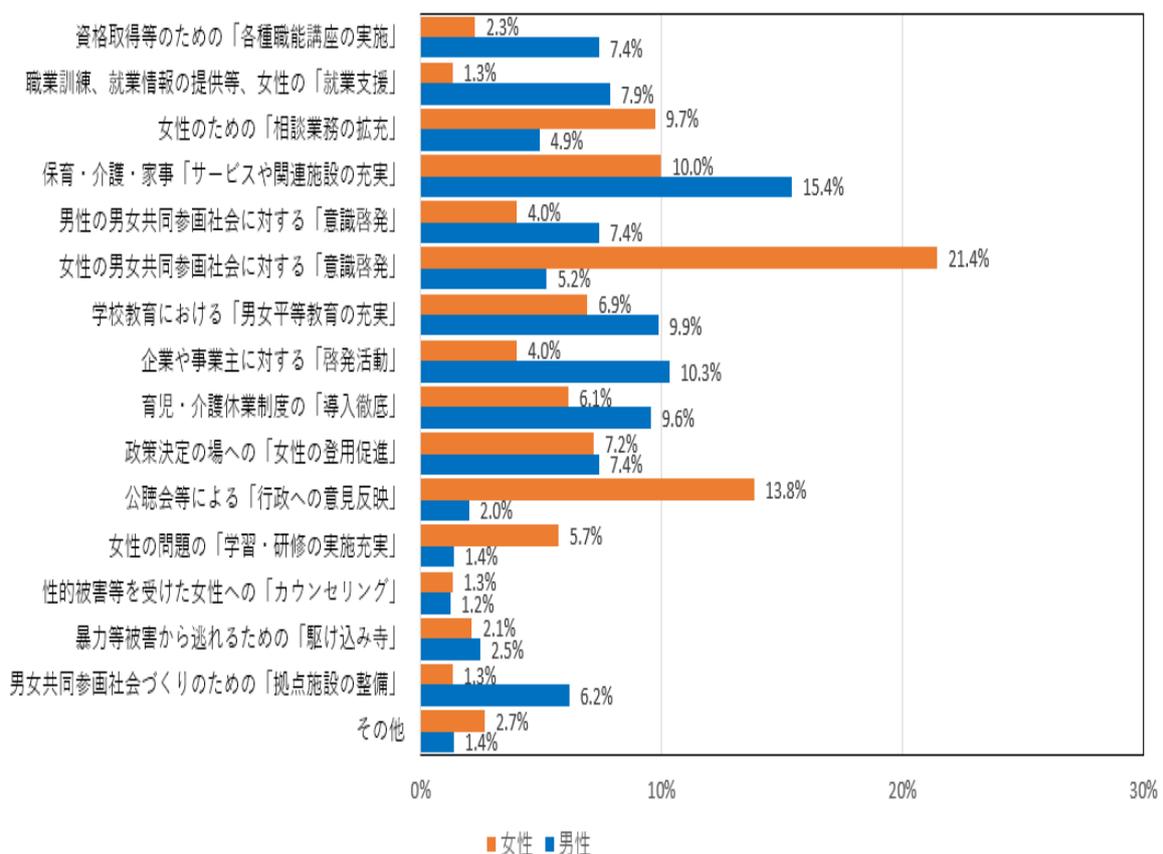
◇ 女性の参画が少ない理由(SA) (平成 23 年度)



問 27.あなたは、男女共同参画社会の実現のために、行政にどのようなことをのぞみますか。以下の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

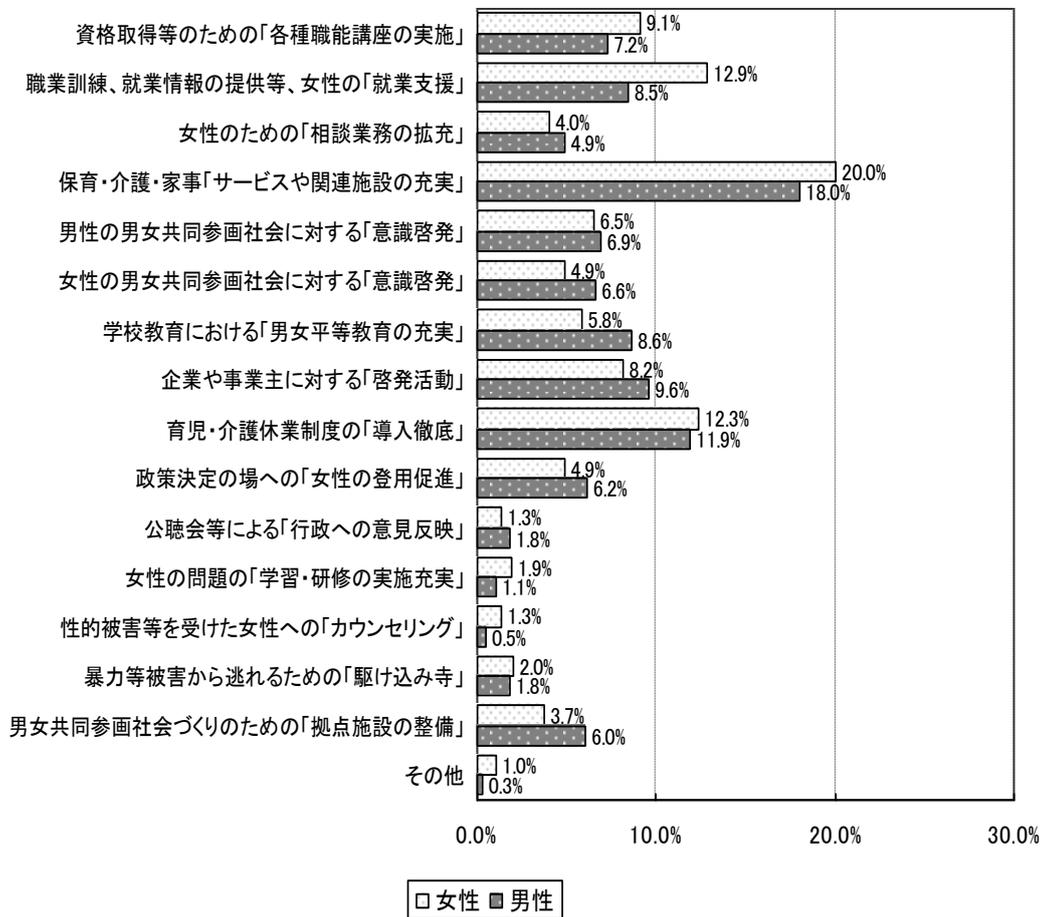
- ・女性は女性の男女共同参画社会に対する『意識啓発』（21.4%）、男性は「保育・介護・家事『サービスや関連施設の充実』（15.4%）が最も高い。
- ・性別でみると、「女性の男女共同参画社会に対する意識啓発」が女性（21.4%）男性（5.2%）で16.2ポイント差があり、最も差が開いている。
- ・前回調査と比較すると、女性は「女性の男女共同参画社会に対する意識啓発」が前回調査（6.5%）より14.9ポイント高く、男性は「保育・介護・家事『サービスや関連施設の充実』（前回調査（18.0%）より2.6ポイント低く、最も差がみられる。

行政に望むこと（令和2年度）



(平成 23 年度)

◇ 行政に望むこと(MA) ◇

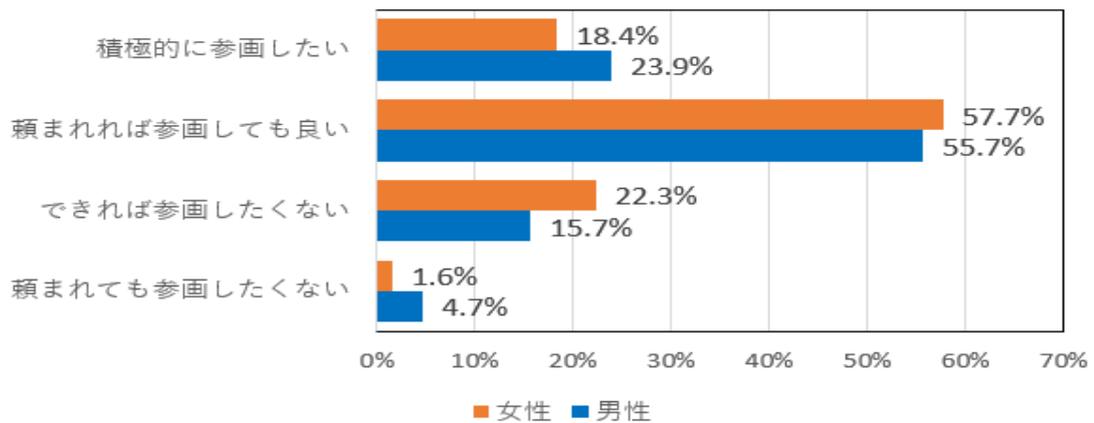


10. 防災について

問 28.地域や職場での防災活動（避難訓練や備蓄など）や被災後の避難所運営への参画についてあなたはどのように思いますか。あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選び番号に○印をつけてください。

- ・女性・男性共に「男性優位の社会の仕組みや制度がある」が約5割半で最も高い。
- ・性別で見ると、「できれば参画したくない」が女性（22.3%）男性（15.7%）で女性が6.6ポイント高く、最も差がみられる。
- ・前回調査では同項目無し。

防災の参画について（令和2年度）

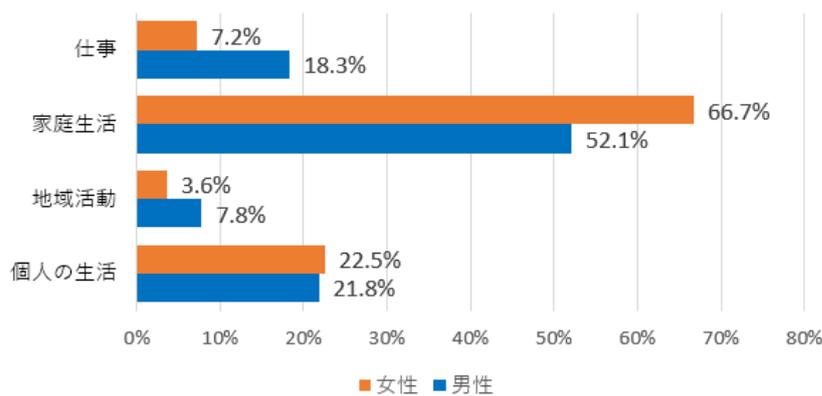


11. ワークライフバランスについて

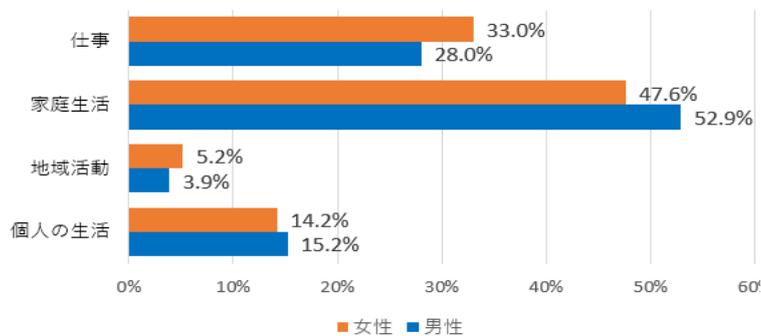
問 29. 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」、「個人の生活」の優先度について、あなたの希望に近いものを1つだけ選び番号に○印をつけてください。

- ・「希望する生活の中の優先度」では「家庭生活」が女性約6割半、男性約5割で最も高い。「実際の生活の中の優先度」でも「家庭生活」が女性約4割半、男性約5割で最も高い。
- ・2つの優先度では「実際の生活」の「仕事」が、女性は25.8ポイント、男性は9.7ポイント「希望する生活」より高く、最も差が大きい。
- ・前回調査では同項目無し。

希望する生活の中の優先度（令和2年度）



実際の生活の中の優先度（令和2年度）



自由意見のまとめ

各設問で回答を頂いた「その他」の意見や自由意見を以下に掲載します。

問 12. あなたは今後、男性が女性とともに家事、育児、介護、地域活動等への男性参加を進めるために必要なことは何だと思えますか。

「その他」の具体的回答

- ・昭和の男性と平成の男子とはかなり考えも違ってきていると思う。育つ間の親の教育が違うから。
- ・男性が家事を行うことがあたり前であることを子供頃から家庭なり学校なりで教育していくこと。
- ・出来る人がすれば良い。この質問自体が差別を生む。
- ・そもそも家事をしたことあるか？育児をしたことあるか？介護をしたことあるか？なければ、本人たちが何に重きをおいて生活するかが一番大きいと考える。
- ・夫婦で協力し、行うべき。男女は関係ない。
- ・会社（企業）が推奨、提案して実行してほしい。
- ・学校教育により男性も家事など出来ることの重要性を教える。
- ・職場での仕事について、男性の負担を少なくする。
- ・男性の参加という問題は、以前より少しずつ向上しているでしょうが、思想哲学的な部分や現実生活の上での問題が大きく10年単位での変革は可能であると思えますし、時代はその方向に進んでいると思えます。
- ・男性が家事や育児方法を学習する機会を多くつくり、母親（女性）をサポートできる教育を充実させることが必要。
- ・まず、生まれた時から、身に着ける色、男の子→ブルー、女の子→ピンク。制服 男子→ズボン、女子→スカートを、廃止すべきです。知らず知らずに、男女格差を植えつけています。
- ・男性は特に料理などをしたことがない人が多いが、妻とのコミュニケーションを取り、一緒につくるなどの努力をすること。

問 13.あなたと仕事の関係は次のどれですか。

現在働いていない人について「その他」の具体的回答

- ・病気の為、早期退職し、自宅とデイサービスのお世話になっています。

問 14. 女性が職業をもつことについて、あなたはどのように思いますか。

「その他」の具体的回答

- ・その人、その人の環境や境遇があるので何が一番いいかとは言えない。
- ・家族や本人の考え次第だと思います。
- ・個人の意思に任せる。
- ・職業をもつことは良いと思うが（大切だが）、家庭の事情や本人の健康状態、年齢等問題はあります。
- ・自分の人生においては、継続的に職業を持ち続けた方が、家庭以外の人と交流をもてるのでよいと思うが、人それぞれの事情や人生があるのでそれを他人に強いたり、勧めようとは思わない。
- ・働きたいなら働けば良い。子どもがいるいないは関係ない。
- ・働きたい人は働き、そうでない人は別の道を考えたら良い。（これは男性やその他の性別の人たちもそう）
- ・女性が職業をもつことについて1～5の質問があること自体、実際に女性が働き続けることが難しいということを表しているように思えます。（男性にはこういうこと質問しない世の中だから）女性は周囲の理解（家族や親戚・義父母）がない限り働けないということなのかなと思ってしまいます。
- ・生活が困難にならない為には、私は仕事をしないといけない人もいると思う。
- ・個々の考えによって選択する。
- ・家庭によって事情があると思うので、一概には言えない。
- ・個人の選択の問題なので多様な生き方を尊重すべき。
- ・生活ができないので女性にも働いてもらうしかない。
- ・職業を持つこと、専業主婦になること、どちらも選べる方が良い。
- ・多くの職場では産休育休後の自分のポストがなくなる（働き続けたい）
- ・その家庭環境により異なるが、実情一方的に決めつけられない。
- ・その他の家庭の経済状況による。
- ・職業を持つ、持たないは個人の好きにすればよいと思う。
- ・現在日本で、夫婦共働きでなくて生活できる家庭が何件あるでしょうか。それぞれの立場で考えるしかない。
- ・子どもができて働きやすい環境が必要。保育園、パートで働く場所。
- ・話し合うだけ。
- ・業を持つ事だけが全てではないため、自分の生きがいがあれば、持たなくても良いと思う。持つ方がよい、持たない方がよいの2択では選べない。
- ・安定的な生活には、夫婦双方が働く方がよい。片方が働くだけでは安定しない。

- ・持ちたければ、持てばいい
- ・女性本人が決めればよい。
- ・本人の意思を尊重し、働きたい人には結婚、出産にかかわらず、仕事を続けてほしい。

問 15.あなたの今の職場では、女性は男性に比べて仕事の内容や待遇面で差別されていると思いますか。

差別されていると思う人について「その他」の具体的回答

- ・連帯責務者なのに世帯主にしか住宅手当をもらえない。
- ・女性は楽な仕事を割り当てられることが多い。考え方によっては優遇されている。
- ・産休など待遇が良すぎる今の女性は。
- ・雑用は女性の仕事。
- ・専用の施設があるにもかかわらず夜勤に従事させていない。また運転は主に男性が行っている。
- ・女性が責任重くなる。帰宅が遅くなるなどの理由から、昇任に消極的で補助的業務でよいとする考えの払拭。
- ・社会全体逆もあり、パワハラ・モラハラ・セクハラ・逆セクハラ、日大の代表者たちの態度、教育自体に問題あり。

問 16 男性も育児・介護休業をとることができますが、このことについてあなたはどのように思いますか。

「その他」の具体的回答

- ・女性の仕事の関係で協力しなければいけない時はなるべくとるべきだと思う。
- ・「べき論」による押し付けは必ずどこかにしわ寄せがいきます。
- ・ケースバイケース。
- ・どちらでもいいが、会社としては役職ある人に休業されると困るし、私たちも積極的に取りたいか不明。
- ・取ると生活ができない。
- ・介護については理解できるが、育児については特別な場合を除いて必要ではないのではという考え方がある。
- ・職業により違うのではないのでしょうか。
- ・何だかんだ言っても会社で働いてとれるわけない。変わらない。
- ・選択肢の一つではあるべきだが、とってもとらなくても自由。

- ・育児や介護に対する知識が不足しているため休暇だけが存在しても意味がない。
- ・次世代育成支援認定や働き方改革等で、子育てしながら、男女共に働きやすくなっていると思います。

問 16 (副問 1) .問 16 で「男性も育児・介護休暇をとることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」を選んだ方にお伺いします。現実に取りづらい理由は何だと思えますか。

「その他」の具体的回答

- ・育児休暇の規定がそもそもない。
- ・中小企業であれば人数が少ないため難しい。
- ・女性の強い意志が大切であり、男性、女性の役割分担は、各家庭環境で異なるため、支援だけで続けられるとは思わない。
- ・職位と責任の重み。
- ・ほぼ女性だけの職場だから。

問 17.あなたは女性が仕事を続けていくためには、どのような支援改善が必要だと思いますか。

「その他」の具体的回答

- ・職場には継続して勤務している人が必要であり、女性は出産等があつて困難だが、男性には可能である。
- ・仕事がついついからダンナに食べさせてもらおうかという女性もいます。その逆はあまりいない？母親に食事を作ってもらうのが当たり前という同世代の男性は非常に多い。
- ・支援改善条件整備を実際利用できる世間（社会状況）ができることが大事だと思います。
- ・女性が休業することによりブランクを生じ、会社としてもマイナスになるので職業に復帰する際に保証金を出す。
- ・人生に余裕がないので他人の目が厳しい。役所とは違う。
- ・生活圏内での勤務（通勤距離）人事異動上の考慮。
- ・派遣労働者制度をなくする。もしくは働いている間は、正社員と同じにする。
- ・年齢制限を設けるのではなく、個人のスキルにて採用する会社、社会にしてほしい。
- ・女性本人の意思と努力。
- ・女性がもっと意識をもつこと。

問 18.自治会などの集まりや作業の中で、女性も男性と共に参加したり、男性と同じように発言することができにくい雰囲気や状況はあると思いますか。

(副問 1) 問 18 で「できにくい雰囲気や状況があると思う」と答えた方におうかがいします。それはどんな雰囲気や状況だと思いますか。

「その他」の具体的回答

- ・活動内容によって異なるが、力仕事は男性という雰囲気である。たとえば、草刈などの草刈機使用は男性のみで清掃行事などでは、男女の差が表れる。
- ・力仕事などは男にしかできないから。
- ・年よりは男が上と思っているから 60～80 才は何を言ってもダメ。バカの時代。
- ・古い体質が続いており、もともと若手や女性の発言を良しとしない雰囲気がある。
- ・日本社会全体で、まだまだ、労働基準法についての事柄が学ばれていない。
- ・固定観念にとらわれたままでのやり方を変えようとする。
- ・女性自身が役員をしようとする人が少ない。

問 21.あなたに子どもは学歴はどこまで必要だと思いますか。

男の子どもについて「その他」の具体的回答

- ・関係ない。
- ・本人の希望。
- ・学歴は、仕事に関係ないのではないですか？専門学校・大学に行っても資格を取って職についた時にそれなりの仕事についてない人が多いですよ。
- ・適正による。
- ・子どもの意見も合わせて決定すればよい。
- ・自分の将来の職業に必要な資格なりをとるための学校を最終学歴とすればいい。
- ・学力が必要。
- ・志があればどこでも。
- ・やりたい事に応じて必要なもの。
- ・生きていく上で大事なことは学歴だけではないから。古い考え方だと思う。
- ・どうでもいい。
- ・自分の目標があれば、学歴は関係ないと思う。目標に向かって学校を選べばよいと思う。
- ・中学。
- ・高校までは基本的な学びがあると思うが、学歴ありきではないと思う。

女の子の子どもについて「その他」の具体的回答

- ・関係ない。
- ・本人の希望。
- ・学歴は、仕事に関係ないのではないですか？専門学校・大学に行っても資格を取って職についた時にそれなりの仕事についてない人が多いですよ。
- ・適正による。
- ・子どもの意見も合わせて決定すればよい。
- ・自分の将来の職業に必要な資格なりをとるための学校を最終学歴とすればいい。
- ・学力が必要。
- ・志があればどこでも。
- ・やりたい事に応じて必要なもの。
- ・生きていく上で大事なことは学歴だけではないから。古い考え方だと思う。
- ・どうでもいい。
- ・自分の目標があれば、学歴は関係ないと思う。目標に向かって学校を選べばよいと思う。
- ・中学。
- ・高校までは基本的な学びがあると思うが、学歴ありきではないと思う。

問 22.妊娠・出産を担う女性は、男性とは異なった体や心の問題に直面することがありますが、女性が将来にわたり心身ともに健康であるためにどのようなことが大事だと思いますか。

「その他」の具体的回答

- ・男性の理解と思いやり。女性向けだけではなく、男性も同様に学習、相談できる体制が必要。
- ・色々な人の理解、優しさ。
- ・総合相談窓口。
- ・自分から相談しにくいと感じる。気軽に話ができる窓口がほしい。
- ・人権尊重や健康も大事とは思いますが、そこに到るにあたり、道徳が前提である事が望ましい。
- ・社会や職場における配慮。
- ・女性だけの問題ではないので、男性の意識も変える必要がある。
- ・女性に対しての男性の思いやり。
- ・学校における性教育の実施。→避妊方法。レイプされそうになった場合の具体的な回避方法。レイプされた場合の具体的な処置方法及びカウンセラーの紹介。
- ・男の為、具体的に不明。

問 26.女性の社会進出が進んでいますが、議員や審議会委員、町内会の長などにはまだ女性が少ないのが現状です。このような女性の参画が少ない理由はなんだと思いますか。

「その他」の具体的回答

- ・個人は別として、全体として女性より男性の方が人の上に立ちたいという人が多いからでは？
- ・集会などに参加したくないので夫に出てもらっている。
- ・男性は長いものにまかれるのが上手。
- ・女性は忙しい。仕事、家事、育児、近所つきあい…権威も欲しがらない。
- ・よくわかりません。どれにもあてはまりませんでした。
- ・きちんとできる人、なれる人がすればいい。
- ・仕事・家事で精一杯で、他のことをする余裕がない。
- ・女性は仕事や家事が多く、時間がとれないので参加できていない。
- ・興味が無い。面白くない。知らない。
- ・全部。
- ・妊娠・出産などで働けない時期があるから。
- ・今までの制度がそうだったので意識が変わってない。
- ・情報自体が伝えられていない（真実の）男女ともに。
- ・家族内の役割であり、できる人が役割を担うことが良い。男女ではなく、人間性のある方になってほしい。
- ・充分女性も参加してると思う。
- ・地方は、昔の考えが残っているので、男性優位の人が多いと思う。

問 27.あなたは、男女共同参画社会の実現のために、行政にどのようなことをのぞみますか。

「その他」の具体的回答

- ・女性登用と言って、女性優遇することはやめて下さい。あくまで男女平等です。
- ・意識啓発だけでは何も変わらない。義務化すべき。
- ・まず、家庭内の女性の負担をやわらげないと、外で力を発揮できないのでは？
- ・そのうち変わる。特に何も望まない。
- ・高齢役員、長の引退。卒業年齢を設けてはいかがでしょうか。
- ・よくわかりません。どれにもあてはまりませんでした。
- ・アンケートで聞かず、市民に自分から声をかけ、話を聞くべき！
- ・年寄りの偏見をなくするのが大事。

- ・子どもができるまでは男性と同じレベルの仕事をさせる。仕事の現場で女性を甘やかしている。
- ・日大の代表者みたいな考え方の者たちだらけならば、不可能(例、日大アメフト部の監督) パワハラを推進していく国。
- ・地域性の問題。古いしきたりや習慣。
- ・60才、50才、40才代の男性への参加しやすい家事、育児の知識を教育する場をつくってほしい。(休日、夜間)理由；女性は母から母へ伝えられ、知っていることも多いが、男性は知る機会も少なく、いざ手助けしたくてもひとつひとつ聞くくらいなら、自分でやった方が良いということになるため。
- ・役所内でも夫婦であれば、男性の役職が上がると女性は上げないと聞きます。個人の有能性で判断しなければもったいないし、おかしい。
- ・個人の有能性で判断しなければもったいないし、おかしい。役所内でも夫婦であれば、男性の役職が上がると女性は上げないと聞きます。

問 30. 男性と女性が家庭、職場、地域社会、政治の場などあらゆる分野での共同で参画する社会を実現するために、市に対してのご意見やご要望などございましたら、ご自由にご記入ください。

- ・地区での勉強会が必要である。男が女性の年上であっても上から目線で物事を進めようとしている。市に対して職員、前職員の一部ではあるが、自分は公務員である。あった。そのような上から目線で相手に対して見下している者もいる。無意識ではあるが、役職の上の方はよく理解しているが、係長クラスで終わった方にそのような傾向が見られる。職員の方々に差別の問題意識づけを勉強させ、すべての地域の方々に伝えていく必要があると思います。
- ・年代に於いて、まだまだ男尊女卑の風調は色濃く残っており、段々、年老いて家事、労働が難しく負担になっても女性に家庭内の仕事を強いる傾向にあるので、男性の固定観念を変え、助け合うという(共に生きるという)自覚を持ってもらう必要があると思います。どうすればいいのかナァ？
- ・例えば、管理職に女性の人数を増やそうとすることはやめて下さい。昇進ルートに管理職しかないことが問題で、ほとんどの女性は管理することを仕事の目的にはしていないし、そもそも管理が苦手な人が多いように見受けられます。それよりも専門職を設けて、そういう分野で女性の能力を発揮してもらい、処遇も上げていくべきだと思います。それが働き甲斐であり、成果を上げていくことにも繋がっていくと思います。
- ・社会全体、個人個人の意識を変えることが必要だと思います。
- ・男女が対等に参画できる環境と制度を整備する。
- ・社会全体の風潮が変わらない限り、育児・家事は女性との考え方は変わらない。子供の教

育の場から変えていくべきだと思います。

- ・個人の能力には色々なものが有ると思います。その能力を生かせる場を提供したりとチャンスを与えて頂きたい。又、自分には判らない能力を教えたり、気付かせたり、自分に有るその能力を受け入れさせたりする場や環境を与えて頂きたい。
- ・地域社会・政治の場などの女性の進出を、男女同数を目標・理想として奨励する。特に自治委員や市会議員等の女性の割合を増す様な環境整備をする。
- ・最近では女性の方が強い。(40代から下)
- ・市はよくやっている。各々の家庭内や個人においてもっと考え方を充実させるべきでは？
- ・家庭・職場・地域社会・政治の場において男女平等であるべきだと思う。しかし、女性の何割の方が共同参画したいと思っているのか？そう思っていない女性が大半であれば実現不可能な話しだと思います。まずは、女性からアンケートをとって意見を集約したり、具体的にどのようなところで共同参画できないのか(実体験)を広報などで知らせていくところから始めていってはどうでしょうか。
- ・男性向け、女性向けと分けずに一般向けというように対象を拡げてはどうか？希望する人が希望するサービスを受けられるように窓口に幅を持たせた方がよい。男性、女性を区切ることが、性的マイノリティーの人が利用しにくい環境を作るのではないかと？性別ではなく、対一個人としての対応や配慮を望む。
- ・宇佐市は都会に比べ、女性が働く(働きやすい)環境はまだ少ないと思う。いろんな企業の誘致や、賃金面の改善をした方がいいと思う。
- ・柔軟な考え方ができる人材を育成して下さい。
- ・民間の企業などでは男性が育休取得したり、時短勤務で育児に積極的に参加することができない方が多いと思います。当たり前のように女性が出産を機に退職したり就業時間を調整して主に育児をしています。これから男性の育児取得例が増えて、社会全体として男性も積極的に家事育児に参加できる環境になってほしいです。
- ・まだまだ年配の方の考えは、男性優位思考だと思う。
- ・男性と女性以外にも様々な性別があるということを忘れないでほしい。
- ・「女のくせに出しゃばる」とハッキリ言う人は減っているので女性がもっと前に出てもいいと思う。男性の影にかくれて楽をしている女性もいる。
- ・高齢男性は明らかに女性の能力を認めていないと思います。議員、区長に卒業年齢を設けて、後継にゆずることですばいふんと風通しの良い社会になると思うのですが？
- ・ただアンケートをとって終わりにならないように！市役所に期待しているところは、とてもあるので、市民の為に頑張って良い解決策を考えて下さい。
- ・特にないです。時代によって自然に変わって行くのではないかと思います。問題が起こった時に良いように変えて行けばいいんじゃないかと思います。
- ・男性は男性の長所を生かし合う、補い合う世の中になってほしいです。地位、名誉、学歴を主としない世の中になってほしい。上下関係のない世の中になってほしいです。

- ・このような意識調査自体が男性・女性ともに持っている様々な先入観に疑問を投げかける良いキッカケになっていると思う。これからも様々な角度から、このような活動を続けて頂きたいです。
- ・子育てしていても働きやすい職場が増えてほしい。パートタイム（短時間）で働ける職場の情報をもっと発信してほしい。
- ・それぞれの生活や考えに合わせて好きにして良いと思う。
- ・私は年金生活です。一番大事な子育て（大人になって社会に貢献できる人）にもっと力を入れてほしいです。お父さんも大変ですがお母さんは、仕事、妻、家事、子育て、休む時間がありません。お母さんにゆとりの時間を作ってあげたい。男性には理解できません。女性が社会に出て声をあげてほしいです。女性が社会参加をしてほしい。女性の声を聞いてほしいと思います。
- ・産休・育休は取得できるが、男性、女性ともに制度は理解しているつもりのようなのだが、何となく引け目を感じさせるような言動があり取りづらい。制度の周知とともに、気持ちよく送り出せる職場の雰囲気があればいいと思う。
- ・年寄り（区長レベル）の偏見をなくしないと女性が外に出るのは厳しい。やる気のある女性（男性も）外に出る余裕が会社によって差が大きい。
- ・課長・部長クラスの役職にもっと女性を活用して欲しい。そうすれば女性目線での沢山の見えなかった事、せねばならない事が見えてくると思うから。
- ・核家族が増え、自由に生活出来る様になり、人への気づかいが出来なくなっている昨今、道徳的な勉強が少ない様な気がします。もう少し、教えの所で思いやり、やさしさ、気づかいに触れ学んでいける地域であってほしい。我先の人が多様な気がする。何かあればターゲットにして責めたり、誹謗中傷する事のない地域となってほしい。
- ・先ず、市議会議員の男女比を5対5にする事。次に各ポスト、市長以下、各部署の長に女性を多く登用すること（自治区の区長等）（人口は女性の方が多い）
※女性自身が自覚し、社会的活動に積極的な参画ができるように市を挙げて論議し、改革として推進させるのが肝要であると思う。
- ・とても興味深いアンケートだったと思います。この意識調査の結果が宇佐市の現状を物語っていると思いますので、是非、分析し、「誰もが住みよい」まちに近づけていただきたいと思います。よろしくお願い致します。
- ・私は医療従事者です。職場は繁雑でなかなか就職する人が見つかりません。そんな中、結婚や妊娠をしてしまうと、上司からマタハラ・パワハラを受けます。その上司はマタハラ・パワハラの相談役になっている人なのでどうすることも出来ません。
- ・意見した所で、行政の動きは遅いので当面は変わらない！
- ・父子、母子家庭が生活苦にならぬよう、社会参加しやすいよう、更なる補助や保障等、行政にも検討、取り組みを進めていただきたい。
- ・このアンケートをどう生かし、またどのような形で生かされていくのか又は生かされてい

るのか。単なる情報収集でないと信じております。紙面にて答えられる範囲の回答をして
おりますのでご了承ください。今後よりよい市政に生かされることを期待しております。

- ・子育て等にもう少し所得等関係なく、支援、情報がほしい。
- ・教育の場で男性・女性平等と過去の経過を話し合う機会を設けてほしい。
- ・啓発のための研修会等をどの職場でも行ってほしいです。
- ・市議会議員の3割以上を女性にする法制化。公務員の管理職の3割以上を女性にする法制化。体方面以外で女性が男性に対して劣る部分は少なく、市議会・公務員等から現状を支えれば社会全体が劇的に変わる。
- ・絵にかいた餅にならないように。やるなら、PDCAで徹底的にやってほしい。こんな時間がかかるアンケートを個人にやらせて本当に役に立つのか不安。多分何も変わらない。中津や高田は何かいいところがある。宇佐もこれは他に負けないうって1個でも作ってほしい。
- ・女性が世の中で実力を発揮できるようにないと思う。
- ・地方である当市においては、男女ともに「男は男らしく、女は女らしく」等の考え方が根強く残っている。(特に40～50代以上の時代) 社会や行事において中心的な立場を有する時代である。30代以下の方々はフラットな目線を有する人が多いと感じるので、指導的な立場にある職場であれば、役職者等、社会であれば区長や区の役員等、老人会や婦人会などのあらゆる会において男女平等についての意識啓発活動をお願いしたい。(一定程度以上の年齢の方は生まれてからの考え方や教育を受けたものが刷り込まれたものがあるので、すぐには難しいと思いますが。) 特に政治の場においては、制度政策を決定する場となるため決定する立場にいる人の意識啓発をお願いしたい。
- ・育児休暇が2～3年取れる。時短勤務が9歳まで取れるなどの制度があれば、正社員時短で子育ても楽しめると思う。結局正社員で復帰しても、子育てとのバランスを考えると時短をしたいので、パートなどにならなくてはならない。特に小学校に上がる年ではできるだけ家にいて帰りを待っていてあげたいと思う。また、パートになれるだけの男性の給与、扶養手当などがあれば子どもも複数人育てたいと思うし、パートで(小さいうちは)仕事を続けたいと思う。子育て後に働き続けられる環境があるのが理想。
- ・一定の年齢(40才～)になると考えが固まっているし、いくら今の時代はと言っても変えようとか変わろうとしないのが現実だと思います。母の時代(80代)よりは「随分と良くなった」とは夫と私の姿を見て言われています。娘の時代(20代)はさらに男性と女性の差が少なくなっているのではないかと思います。しかし、50代の夫を持つ私に対しての娘の姿は、夫と同じような態度です。家庭では私がまるで家政婦さん扱いです。
- ・今の世の中、何が起きるかわかりません。地域においてでも顔の知らない人が多いのではないのでしょうか。まずは、地域から縦・横のつながりが大事だと思います。コロナが終息するのを願いつつ、若者が定着できるように就職の支援など、気配り、以前のように声かけ運動、小さな親切運動、花いっぱい運動。安心して明るい住みやすい村・町づくりから

少子高齢化になっていますが、なんとか良い時代になって欲しいです。

- ・女性が外で輝いていても家庭生活が乱れていては意味がないと思います。家庭は家族それぞれ皆が社会に向けて発信していく大切な所基板です。健全な家庭生活があってこそ、男女共同参画。育児や家事はつまらない仕事ではないと思います。未来の日本や世界を動かす人達を育成していく仕事です。その大切さを今一度認識したいものです。◎健全な家庭づくり（夫、妻、親、子が信頼し合い、子どもを愛し慈しむ）
- ・次期副市長と教育長は女性を登用し、その心意気を見せてください。
- ・昔からのしきたり、偏見など小さいころから親の影響を受け、育った子どもたちが現在の社会を作っている。男女平等、あらゆる分野への参画する社会を実現するためにはこどもの頃からの教育が大切だと思う。教育の場において将来社会へ出ていく子どもたちに対し早いうちから考えさせる場を設けてほしい。具体的なことはよくわからないが、少しずつ変革を進め、理想に近づけるような市の活動に繋げてほしいと思う。
- ・女性が発言できる場が少ないし、また女性は勇気を持って意思表示をしてほしい。
- ・うわべだけの解答ではなく、一人一人の意見をきちんと受け止めてほしい。
- ・アンケートの内容は男女バラバラになっているので、混乱する。男性への意識調査とは別にした方が自分の考えを伝えやすい。政治・職場から導入していけば改善すると思う。若い人は学校教育で男女平等を教えられているので自然と定着しているのではないか。政治・官庁が積極的に取り組むのが第一である。こんな調査をしても結果を役立てられなければ何もならない。
- ・子どもにセクシャルな部分についてもっと学ぶ機会があってもよいと思う。性について正しい知識は今の学校教育では、学ぶことが少なすぎる。
- ・子育てをする間、男性と同様に責任のある仕事を十分に全うすることがむずかしい。子どもは母親との時間を求めているような気がするので、どうしても子どもとの時間を優先すれば仕事面では、あきらめざるを得ない面はある。常勤で働きながら家事・育児・仕事をこなしていると、オーバーワークだと思うことが多くある。自分の時間はほとんどない。3人も子どもがいると、パートなどで働くこと家計が苦しいので仕方ない。どうすればよいかわからないのですが・・・。
- ・『男女共同参画社会づくり』非常に難しい問題だと思います。現在21世紀の前半アメリカでは人種差別が大きく取り扱われています。こうした問題は何度かの大きい区切りを重ねてきても一向に改善がなされていません。ネックには思想・哲学といった精神社会を変革していかない限りこの差別という芽を断ち切ることは出来ないだろうと思われまます。いくら口だけで美談を並べても精神（心の中に）差別心がある以上すべての人類を共存共栄は果たせないのも現実だと思います。日本の国の差別も永い歴史の中の変革の出来にくい、いくつかの問題の1つだろうと考えられる様に明治以降は21年太平洋戦争以降少しずつ良い方向に進んではいるとは思いますが。男女共同参画社会の実現は男性側の理解は大と思いますが、女性側の考え方も随分と影響があると思います。事なかれ主義的な

部分や変革改革をのぞまない風潮が進歩を進めていることも事実で行政が中心となるべきものでもないように思えます。日本人すべてで考えて進んでいく大きな問題であって差別を根絶するための大きい問題の一つであろうと思います。一步一步進んで一步一步小さい問題の解決こそ明るい未来がやってくると思います。

- ・高齢の方はどうしても男の役割、女の役割というような考えにこり固まっていると思います。かといって若い人がすべて前向きな考えを持っているとも思いません。これからの日本の社会を支えていく若い人達の為に意識改革をする様な講座などしたらと思うけれど・・・。それに参加するように働きかけるのも重要な課題になると思います。
- ・地域活動に積極的に参画する様に女性自身の能力発揮の場を与えてほしい。
- ・体格や体力的に男女差はある。自分や自分の親世代にも男女差別はすりこまれており、それはなかなかぬぐい去ることができない。それは、生まれた時から、色だとかスカートの強まり等により、すりこまれている。目にするものから、女性は男性より「下」なのだという良識が植え付けられている。「子育て支援」や「男性の育児休業」取得も大事なことである。男性目線ではないので、女性→育児支援という発想しかないと思う。男性目線が多いので、「女子→スカート」になると思う。なぜ要職に男性しかいないのか、なぜ、福祉。子育て支援部門に女性職員が目立つのか。
- ・人は、便利さや裕福さを追求する為に、共働きをして、家庭生活や地域活動、子どもの教育等に影響を及ぼしているのではと思います。
- ・いくつになっても、元気に明るく仲良く楽しく過ごしていける事を望む。
- ・80才にしては回答が出来ない場面があり、このアンケートは役に立たないと思います。80才にしては、マッチできない設問が多過ぎます。それなりの設問がほしいです。
- ・女性は男性に対して、出産、体力差のハンディがあり、それを認めたくえて、男女平等の制度導入が必要だと思う。
- ・昔の人は、男は仕事、女は家事育児という考えが多い。仕事をはやく帰らず、ダラダラ残って帰りにくい雰囲気をつくっている。若い人は、子どものため早く帰りたいが、帰りにくい。結果女性に育児家事の負担がいき、仕事が思うようにできない。
- ・女性が社会進出しづらいのは、妊娠・出産・育児・介護が、今なお女性の役割であるという、社会の強い固定観念があるからだと思う。大事は仕事がある時に、子どもが熱を出し、夫に仕事を休んでもらえないかと頼んだが、夫の上司から「子どもの世話は、嫁に任せろ」と言われた。大企業の管理職ですら、平気でこんな言葉を吐く。こんな社会でどうやって家事・育児・仕事を男女平等でできるのか？
- ・男女平等と言われると女性は嬉しいが、女性が強くなりすぎて、男性が弱くなり、家事や育児を男性まかせになっている家庭があるので、男性は少しかわいそうなのかな…と思うことが最近多いです！！
- ・日本の社会全体に男尊女卑の思想が残っていると思います。家庭においても（特に田舎）そんなことはするな、女のくせにせんでいい。と言われることも多く、男性（主人）の意

見を聞き入れないといけないことが多くあります。男性、女性とすべてに対し、平等な社会を作ろうとしても、男性の体、女性の体は変えることができません。お互いその違いを認め合い、尊重していくことが大事だと思います。そのような啓発運動に取り組んで頂きたいです。

- ・家庭、職場、地域社会、政治等の場作りを！もっと多く設けて、あらゆる男、女の年齢別の意見吸収の場を増やし、年齢別、地域別に市内在住者全員が、参加できる体制を作って欲しい。一年間の中で、必ず一回は全員が参加できるような企画を立案して欲しい。4つの項目に全て各人一回参加できるように。今の社会はどちらかというと、対岸の火事になっている。我何も感知せず！！
- ・共働きをしていることもあり、私の夫は家事や子育てを共にし、夫の両親や私の両親も理解し協力をしてくれており、現在の日々の生活においては「女性」であることに問題を感じることはありません。しかし、過去、幼少期～20代、農村部だったの也有りますが、親戚や身内、職場での男尊女卑・障がい者差別発言が普通に飛び交っており、女性や弱者の立場は非常に低いと感じていましたので、今回のアンケートでは思うことが多々あります。男尊女卑も見方を変えれば、弱い女性を守るための方便でやさしさからだと聞きますが、言葉を使うとき側のモラルや教育がないため本来とは違う方向に行ってしまったのだと思います。私の子どもにも聞いてみましたが「男尊女卑？ないやろ？」と言っていましたので、何十年後は、完全にそういった世の中になるのだと思いますが、現在でも男尊女卑の考えは一部の年代で根強く残っています。(何を言ってもスルーしますが(笑))他人の考え方を变える、改める、お忙しいところ恐縮ですが、いうことは容易ではない中、このような活動を行なっただけのことは、とてもありがたいと思います。将来ある子どもたちが、男性だから女性だから LGBT だからとかではなく、個々がなりたような人生を後悔なく歩むことができる世の中になってほしいです。
- ・○男の力が弱いから、こんなくだらないことをする必要がある。
 - 昔のように九州男子は武士のような心をもつ男を作るような教育をする。
 - 女性は政治に口出しするな！
 - 男は女性を守れるように強くなるように。
 - 所詮、男も女も自分というものが、わかっていないからこうなる。
 - 相手を思いやる心をもつように道德の時間を増やす。
- ・少子化というわりには、共働きができない。働かないとお金が足りない。
子育てがしやすい環境や待遇をもっと考えてほしい。
資格の更新ができない。(子育てしながらの取得が難しい。場所や時間で中々受けられない。)
児童館だけじゃ足りない。
- ・男女共同参画に係る取り組みについては、行政の積極的な執行(効果・効率的)に努めていられることと存じます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。
- ・子どもをもつ女性が安心して働けるように、医療体制や子どもの預け場所、職場の働きや

すき、その場合の支援等をお願いしたいと思います。

- ・地域の特性等を考えて、男女が社会的対等で、方針の決定に参画機会を確保し、活躍できる町づくり。
- ・男女共同参画の社会づくりの必要性を感じるが、只一朝一夕には、まだまだ時間を要する。
- ・体力差はあっても能力差はないと思います。あるのは、女性の意識の低さと男性の女性に対する劣等感。男女関係なく、適材適所で働いてもらう事だと思います。
- ・積極的に推進してほしい。
- ・職場、地域社会、政治の場、それぞれにいらっしゃる頭のかたい男の方たちの意識を変えていかないと実現なんか絶対できないと思っています。その為にも市の担当者の方たちには、きちんと仕事をしてほしいと思います。

Ⅲまとめと検討課題

◇男女共同参画のための意識改革◇

- ・「男は仕事、女は家庭」という考え方に対して、平成 23 年度の調査と回答を比較すると「同感する」の割合は減少し、「同感できない」の割合は 12.7%増加しました。(問 9)
- ・社会の各分野における男女平等への見方については、学校教育については「平等」が 5 割を超えましたが、それ以外の分野では「男性が優遇されている」との回答が「女性が優遇されている」の割合を上回っています。(問 10)

○ これらの結果から個人の男女共同参画への意識は以前と比べ高まっていますが、社会の各分野においては「男性の方が優遇されている」と感じるものが未だに多いことが推察されます。このような課題に対しては、男女共同参画の意義や知識についてより一層啓発・普及を図り、男女共同参画に関する意識向上を図ることが必要です。また、職場における男女平等の徹底を事業所に強く働きかけることが重要です。

- ・ 男女共同参画の意識は子どものころから培われます。子どもの育て方については、「女の子も男の子も経済的に自立できるように育てる方がよい」や「男の子にも炊事、掃除、洗濯など家庭に必要な技術を身につけさせる方がよい」については、「賛成」・「どちらかと言えば賛成」との回答が 9 割を超え、子どもの性別による役割分担に関する考え方は薄まってきていると推察されます。

一方で、「女の子は女らしく、男の子は男らしく、育てる方がよい」については「賛成」との回答は女性が 4 割、男性が 5 割を超えており、前回調査の結果より大幅に減少したものの、根強く残っていることも伺えます。(問 19)

- ・ 子どもに身につけてほしいと思う事項は、順位は違うものの「礼儀正しさ」「自立心」「協調性」「やさしさ」と男女ともに共通となり、前回調査で上位だった男の子の「忍耐力」や女の子の「家事能力」が上位にあがっていませんでした。(問 20)

○ これらの結果から、成人・保護者に対しては家庭における子どもの指導・教育についての啓発を進めるとともに、子どもの教育現場においては、実践的な男女共同参画に関する教育をさらに推進していくことが必要です。

また、「女の子は女らしく、男の子は男らしく」に代表される性別にとらわれた考え方を改めていくためには、学習機会増加や性的少数者の課題について市民への周知を図り、関心を深める機会をさらに提供に努めることが重要です。

◇あらゆる分野への男女共同参画◇

- ・ 現在は働いていない女性で「働きたい」と考えている割合は2割と少なくなっています。女性が仕事を続けていくためには「家族や周囲の理解と協力」、「家事や介護のための施設の充実」、「育児介護休業取得者の扱いが不利にならない」の割合が多くなっていますが、結婚している家庭の役割分担の現状は「家計の管理」、「買い物」、「食事のしたく・片付け」、「掃除・洗濯」、「育児・介護」を主に妻が行っており、家族や周囲の協力を十分に得られていないことが推測されます。(問 11、13、17)

- 「男は仕事、女は家庭」との考え方は徐々に薄れてきていますが、家庭のことを主に女性が担う現状は変化していないことが伺われることから、家庭内での役割分担について再考する機会や男性の家事や育児・介護への参画を促す取り組みが必要です。

また、多様な就労形態に対応するための保育環境整備や介護者の負担を減らすための住宅改修助成制度の充実や介護保険制度の情報提供なども求められています。

◇働く場における男女共同参画の環境づくり◇

- ・ 職場における性別による対応評価では「男性の方が優遇されている」という見方が「女性の方が優遇されている」を上回っており、賃金格差や昇進・昇格、正当に能力を評価されないなど働く上で重要な要素について、男性の方が女性より優遇されている現状が存在することが回答結果から推察されます。(問 10、15)
- ・ 男性の育児介護休暇取得については「取得することには賛成だが、現実には取りづらいと思う」と回答した割合が多く、その理由としては「職場の雰囲気や周りの人に迷惑がかかること」や「男性の育児休暇の取得についての社会の認識不足」などが挙げられており、今後の大きな課題といえます。(問 16)

- これらの課題への対応として、本市をはじめとした各行政機関が、待遇改善や管理職への積極的登用など、職場における女性の地位向上や男性の育児休暇取得についてロールモデル(模範)を示すとともに、個々の悩みや不安に対して対応できる場や機会があることなどの広報を充実することが望まれます。

また、民間事業者や各種団体に対しても女性活躍推進法などの周知徹底を進めるなど男女共同参画の視点から労働条件・職場環境の改善を促していくことが求められます。

◇健康の増進と福祉の充実◇

- ・ 女性が生涯にわたり心身ともに健康であるためには「思春期・妊娠・出産・更年期・老年期に合わせた健康づくり」や「心身にわたる様々な悩みに専門的に対応する相談体制の充実」が大事だと思うとの回答割合が、男性・女性ともに高くなっています。(問 22)
- ライフステージに合わせた健康づくりや出産・子育てに関する情報周知に努めるとともに具体的な制度充実を進めていくことが重要です。

◇配偶者等に対する暴力の根絶◇

- ・ 平成 23 年度の調査では、すべての項目で女性の割合が男性の割合を上回っていましたが、今回の調査では男性の割合が女性の割合を上回る項目も見られました。また、平成 23 年度の調査と比較して男性が被害を受けたと回答した割合が上昇した項目が多く見られました。(問 24)
- このような課題に対しては「身体的暴力」だけでなく、「言葉の暴力」や「精神的・経済的に追い詰めること」も DV であるといった基本的な知識各種や相談機関紹介などの情報を広く啓発・普及することが必要です。
また、子ども・高齢者などへの虐待を含め、それらの早期発見と被害者支援のための関係機関との連携を緊密にするなど、DV 発生の未然防止と被害者保護・救済についての施策充実を図ることも必要です。